

# 九州中央病院内科専門研修プログラム

## 目次

1. 内科専攻医研修プログラムの概要（理念・使命・特性, P2-3)
2. 募集専攻医数 (P4)
3. 専門知識・専門技能とは (P4-5)
4. 内科専攻医知識・技能の習得計画 (P4-7)
5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス (P8-9)
6. リサーチマインドの養成計画 (P9-10)
7. 学術活動に関する研修計画 (P10)
8. コア・コンピテンシーの研修計画 (P10-11)
9. 地域医療における施設群の役割 (P11)
10. 地域医療に関する研修計画 (P11-12)
11. 内科専攻医研修の概略図 (P12-13)
12. 専攻医の評価時期と方法 (P13-15)
13. 専門研修管理委員会の運営計画 (P15)
14. プログラムとしての指導者研修の計画 (P16)
15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理, P16)
16. 内科専門研修プログラムの改善方法 (P16-17)
17. 専攻医の募集および採用の方法 (P17)
18. 研修の休止・中断・移動の条件 (P17-18)
19. 九州中央病院内科専門研修施設群の構成 (P19-65)
20. 九州中央病院内科専門研修プログラム管理委員会 (P66)
21. 年次毎の到達目標と研修カリキュラム (P67-69)
22. 専攻医マニュアル (P70-75)
23. 指導医マニュアル (P76-78)



## 1. 内科専攻医研修プログラムの概要（理念・使命・特性）

### A. 理念【整備基準1】

- 1) 本プログラムは、福岡市南区大橋駅から徒歩 5 分に位置し 330 床の急性期病院である九州中央病院を基幹施設として、福岡県福岡・糸島医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設と協力しながら内科専攻医研修を行うことで、福岡市医療圏の医療事情を理解し地域の実情に合わせた可塑性のある内科専門医として、福岡県全域を支える内科専門医実践的医療を遂行できる医師を育成することを目標にしています。
- 2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設1～2年間＋連携施設・特別連携施設（最長1年間）1～2年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。
- 3) 内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナルリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴があります。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

### B. 使命【整備基準2】

- 1) 福岡県福岡・糸島医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、①高い倫理観を持ち、②最新の標準的医療を実践し、③安全な医療を心がけ、④プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。
- 2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。
- 3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。
- 4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

### C. 特性

- 1) 本プログラムは、福岡県福岡・糸島医療圏の中心的な急性期病院である九州中央病院を基幹施設として、福岡県福岡・糸島医療圏、近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設で内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設1～2年間＋連携施設・特別連携施設（最長1年間）1～2年間の合計3年間になります。
- 2) 九州中央病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診

断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。

- 3) 基幹施設である九州中央病院は、福岡県福岡・糸島医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携および診療所との病診連携を中心に経験できます。
- 4) 基幹施設である九州中央病院および連携施設・特別連携施設での合計 2 年間（専攻医 2 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（年次毎の到達目標と研修カリキュラム（P45-47 別表参照））。
- 5) 九州中央病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修いずれかの時点で 1~2 年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- 6) 基幹施設である九州中央病院での 1~2 年間と専門研修施設群での 1~2 年間の合計 3 年間（専攻医 3 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます。可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします（P48 別表参照）。

#### D. 専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は、①高い倫理観を持ち、②最新の標準的医療を実践し、③安全な医療を心がけ、④プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

- 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
- 2) 内科系救急医療の専門医
- 3) 病院での総合内科（Generality）の専門医
- 4) 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

九州中央病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、福岡県福岡・糸島医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整える経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

## 2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)～7)により、九州中央病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 6 名とします。

- 1) 九州中央病院内科後期研修医は現在 3 学年併せて 11 名で 1 学年 3～4 名の実績があります。
- 2) 剖検体数は 2023 年度 8 体です。
- 3) 診療科別診療実績で血液・リウマチ領域の入院患者は少なめですが、外来患者診療を含め、1 学年 6 名に対し十分な症例を経験可能と考えます。

表. 九州中央病院診療科別診療実績

2023 年度実績	入院患者実数 (延べ人数/年)	外来延患者数 (延人数/年)
消化器内科	1053	58,448
循環器内科	986	
糖尿病・内分泌内科	481	
腎臓内科	404	
呼吸器内科	904	
神経内科	322	
膵臓内科	862	

- 4) 13 領域のうち 10 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています (P19「九州中央病院内科専門研修施設群」参照)。
- 5) 1 学年 6 名までの専攻医であれば、専攻医 2 年修了時に「研修手帳 (疾患群項目表)」に定められた 45 疾患群、120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です。
- 6) 専攻医 3 年目に研修する連携施設には、高次機能・専門病院 4 施設、地域基幹病院 8 施設および地域医療密着型病院 6 施設、計 18 施設あり、専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です。
- 7) 専攻医 3 年修了時に「研修手帳 (疾患群項目表)」に定められた少なくとも 56 疾患群、160 症例以上の診療経験は達成可能です。

## 3. 専門知識・専門技能とは

- 1) 専門知識【整備基準 4】 [「内科研修カリキュラム項目表」参照]  
専門知識の範囲 (分野) は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病および類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されます。  
「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標 (到達レベル) とします。
- 2) 専門技能【整備基準 5】 [「技術・技能評価手帳」参照]  
内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

#### 4. 内科専攻医知識・技能の習得計画

##### 1) 到達目標【整備基準 8～10】（年次毎の到達目標と研修カリキュラム（P48-50 別表参照）

主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで、専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。

##### ○専門研修（専攻医）1年：

- ・ 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群、60 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます。専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。
- ・ 技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医とともに行うことができます。
- ・ 態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

##### ○専門研修（専攻医）2年：

- ・ 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、通算で少なくとも 45 疾患群、120 症例以上の経験をし、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します。専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を終了します。
- ・ 技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます。
- ・ 態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）1年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

##### ○専門研修（専攻医）3年：

- ・ 症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します。専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します。既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価による査読を受けます。査読者の評価を受け、形式的により良いものへ改訂します。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します。
- ・ 技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができます。
- ・ 態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）2年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、内科専門医

としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

○専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とします。日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します。九州中央病院内科施設群専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 1～2 年間＋連携施設・特別連携施設 1～2 年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長します。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

## 2) 臨床現場での学習【整備基準 13】

内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記①～⑥、年次毎の到達目標と研修カリキュラム（P48-50）別表参照）。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかつた症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

- ① 内科専攻医は、担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
- ② 定期的（毎週 5 回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。
- ③ 総合内科外来（初診を含む）と Subspecialty 診療科外来（初診を含む）を少なくとも週 1 回、1 年以上担当医として経験を積みます。
- ④ 救命救急センターの内科外来で内科領域の救急診療の経験を積みます。
- ⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みます。
- ⑥ 必要に応じて、Subspecialty 診療科検査を担当します。

## 3) 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

a) 内科領域の救急対応、b) 最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、c) 標準的な医療安全や感染対策に関する事項、d) 医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、e) 専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下の方法で研鑽します（年次毎の到達目標と研修カリキュラム（P48-50）別表）。

- ① 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会
- ② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（基幹施設 2023 年度実績 7 回）

※ 内科専攻医は年に 2 回以上受講します。

- ③ CPC（基幹施設 2023 年度実績 5 回）

- ④ 研修施設群合同カンファレンス（2024年度：年2回開催予定）
- ⑤ 地域参加型のカンファレンス（基幹施設：胃腸カンファレンス，呼吸器疾患勉強会，九中循環器医療連携勉強会，南区糖尿病を考える会，救急医療勉強会，がん診療研修会；2022年度実績30回）
- ⑥ JMECC受講（基幹施設：2023年度開催実績0回）開催準備中ですが，連携施設と調整し受講できるようにしています。
- ⑦ 内科系学術集会（下記「7. 学術活動に関する研修計画」参照）
- ⑧ 各種指導医講習会/JMECC指導者講習会  
など

#### 4) 自己学習【整備基準15】

「研修カリキュラム項目表」では，知識に関する到達レベルをA（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）とB（概念を理解し，意味を説明できる）に分類，技術・技能に関する到達レベルをA（複数回の経験を経て，安全に実施できる，または判定できる），B（経験は少数例ですが，指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる，または判定できる），C（経験はないが，自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類，さらに，症例に関する到達レベルをA（主担当医として自ら経験した），B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した，または症例検討会を通して経験した），C（レクチャー，セミナー，学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています。（「研修カリキュラム項目表」参照）自身の経験がなくても自己学習すべき項目については，以下の方法で学習します。

- ① 内科系学会が行っているセミナーのDVDやオンデマンドの配信
- ② 日本内科学会雑誌にあるMCQ
- ③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題  
など

#### 5) 研修実績および評価を記録し，蓄積するシステム【整備基準41】

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて，以下をwebベースで日時を含めて記録します。

- ・専攻医は全70疾患群の経験と200症例以上を主担当医として経験することを目標に，通算で最低56疾患群以上160症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し，合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
- ・専攻医による逆評価を入力して記録します。
- ・全29症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し，専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでJ-OSLER上で行います。
- ・専攻医は学会発表や論文発表の記録をJ-OSLER登録します。
- ・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をJ-OSLER上に登録します。

## 5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13, 14】

九州中央病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は、施設ごとに実績を記載していません（P19「九州中央病院内科専門研修施設群」参照）。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である九州中央病院臨床研修センターが把握し、定期的にE-mailなどで専攻医に周知し出席を促します。

内科研修カリキュラムは総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病および類縁疾患、感染症、救急の13領域から構成されています。九州中央病院には10つの内科系診療科（総合内科、糖尿病・内分泌内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、肝臓内科、脳神経内科、腎臓内科、膵臓内科、心療内科）と救急部により、内科領域全般の疾患を研修できる体制が敷かれています。特に、救急搬入件数は年間約5000台で、各専門内科の24時間オンコール体制の支援により、プライマリーケアから専門内科での緊急対応まで充実した研修が行えます。更に専門内科での入院診療から病診連携の協力による退院支援まで、包括的な診療経験ができます。但し、白血病など専門的診療を要する血液疾患や最新治療を要する膠原病疾患に対する研修は当院では不十分ですので、連携施設や九州大学病院にお願いしています。

### A. 基本的週間スケジュール（別表2）

九州中央病院での消化器内科研修の基本的週間スケジュールを別表2に示します。各内科専門診療科にも実技研修や抄読会を含めた個別のカリキュラムがあります。内科系共通のスケジュールとしては以下があります。

- ①朝の指導医回診（毎朝8時30分～）：ICUカンファレンス（毎朝7時30分～）で決定された当日朝の振分け担当症例と入院担当症例を指導医と回診し、今後の診療方針を確認します。
- ②Weekly summary discussion（週1回）：当該週の自己学習結果を指導医が評価し、研修手帳に記載します。
- ③総回診（内科系3病棟のうち各病棟を月1回）：受持患者について院長をはじめとした指導医陣に報告してフィードバックを受けます。受持以外の症例についても見識を深めます。
- ④内科カンファレンス（月曜17～18時）：診断・治療困難例の検討会、臨床研究や学会発表の報告を行い、内科医師全員で幅広く意見を交わすことで知識を共有し見識を深めます。
- ⑤内科メモリアル・カンファレンス（各専門内科研修終了時）：各専門内科で経験した最も記憶に残る症例を、全職員オープンスタイルの会議室で学会形式に則り発表して頂きます。指導医の総括により、各専門内科研修の到達度を確認しています。
- ⑥救急カンファレンス（月曜19～20時）：直近1週間に救急外来で経験した問題症例を電子カルテ上でスクリーン呈示し、適切な救急対応に関してアップデートに意見を交わします。
- ⑦臨床カンファレンス（水曜8～8時30分）：指導医による臨床講義で、最新の臨床知識が得られます。
- ⑧救急症例検討会（金曜17～18時）：研修医自身が経験した教訓的な救急症例を発表し合うことで、得られた見識を共有します。
- ⑨CPC剖検カンファレンス（年5回）：死亡・剖検例について病理診断をもとに臨床上の問題点を検討します。
- ⑩学生・初期研修医に対する指導：病棟や外来で医学生・初期研修医を指導します。後輩を指導することは、自分の知識を整理・確認することにつながることから、当プログラムでは、専攻医の重要な取組と位置づけています。



## B. 年次毎の研修カリキュラム（内科基本コースと Subspecialty 重点および重点強化コース、P50 別表 3）

### 1) 内科基本コース

高度な総合内科（Generality）の専門医を目指す場合や老年病内科専門医，将来の Subspecialty が未定な場合に選択します。内科専攻医 1 年目研修では九州中央病院で 6 科の専門内科をローテーションし，2 年目研修では九州大学病院および連携施設のプログラムにより他の領域専門内科で研修することにより，2 年間でほぼ全ての疾患群が研修できる体制になっています。3 年目研修では九州中央病院総合内科および関連診療科，または療養病床併設連携施設・特別連携施設で外来診療を含めた地域医療の経験を深めます。研修する連携施設の選定は専攻医と面談のうえプログラム統括責任者が決定します。

### 2) 各科重点および重点強化コース（P50 別表 3）

希望する Subspecialty 領域を重点的に研修するコースです。九州中央病院は糖尿病学会認定教育施設，循環器病学会専門医研修施設，消化器病学会専門医認定施設，消化器内視鏡学会認定指導施設，カプセル内視鏡学会認定指導施設，福岡県肝疾患専門医療機関，呼吸器学会認定施設，脳卒中学会認定研修教育施設，高血圧学会専門医認定施設，透析医学会教育関連施設として各領域専門医の育成に努めています。

内科基本コースと同様に，1 年目研修は九州中央病院で，2 年目研修では九州大学病院および連携施設のプログラムにより，ほぼ全ての疾患群が研修できる体制になっています。更に 1 年目研修で内科専攻医研修の症例準備が可能であれば 2 年目研修より各 Subspecialty 領域専門研修を開始できる Subspecialty 重点強化コースの選択もできます。2 年目または 3 年目研修では志望する専門領域の連携施設または当院において希望する Subspecialty 領域を重点的に研修します。将来の志望が明確であれば，2 年目までの研修は他科の領域を選択することにより，更に効率的に目指す領域での知識，技術を習得することが出来ます。

なお，研修中の専攻医数や進捗状況により，2～3 年目研修を連携施設で重点研修を行うことがありますが，あくまでも内科専門医研修が主体であり，研修する連携施設の選定は専攻医と面談のうえ協議して決定します。また専門医資格の取得と臨床系大学院への進学を希望する場合は，本コースを選択のうえ担当教授と協議して大学院入学時期を決定します。

## 6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6, 12, 30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず，これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。九州中央病院内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設，特別連携施設のいずれにおいても，

- ① 患者から学ぶという姿勢を基本とする。
- ② 科学的な根拠に基づいた診断，治療を行う（EBM:evidence based medicine）。
- ③ 最新の知識，技能を常にアップデートする（生涯学習）。
- ④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う。
- ⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。併せて，

- ① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
- ② 後輩専攻医の指導を行う。

③ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。  
を通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

## 7. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

九州中央病院内科専門研修施設群は基幹病院、連携病院のいずれにおいても、

① 内科系の学術集会や企画に年2回以上参加します（必須）。

※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します。

② 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。

③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。

④ 内科学に通じる基礎研究を行います。

を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者として2件以上行います。なお、専攻医が社会人大学院などを希望する場合でも、九州中央病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。

## 8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力です。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能です。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。九州中央病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても指導医、Subspecialty 上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与えます。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては基幹施設である九州中央病院臨床研修センターが把握し、定期的にE-mailなどで専攻医に周知し出席を促します。内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけでなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

① 患者とのコミュニケーション能力

② 患者中心の医療の実践

③ 患者から学ぶ姿勢

④ 自己省察の姿勢

⑤ 医の倫理への配慮

⑥ 医療安全への配慮

⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）

⑧ 地域医療保健活動への参画

⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力

⑩ 後輩医師への指導

医療倫理、医療安全、院内感染対策は患者さんのみならず医療従事者を守るためにも、臨床医にとって極めて重要な課題です。九州中央病院では研修医に限らず、全ての新任医師に対して赴任時に医療倫理、医療安全、院内感染対策に関する指針を周知しております。同指針は電子カルテオープン時に「情報ネット」として最初に展開し、直ぐに確認できます。さらに新任の先生方に対する項目を設置し、特に重要な安全管理マニュアルに対する注意を喚起しています。

倫理委員会、事故防止委員会、感染予防対策委員会、輸血療法委員会、透析機器安全管理委員

会、放射線安全委員会など年 40 回以上開催されている委員会で討議された重要事項は、随時院内 LAN で職員に周知しています。医療安全に関する研修会は年 10 回以上開催しており、出席回数は常時登録されます。特に年 2 回の医療安全講習会と感染対策講習会の参加は必修であり、欠席者は個別に資料を配布し指導しています。

医療のコア・コンピテンシー研修で重要なのは、患者さんへの診療を通して医療現場から学ぶ姿勢と考えます。インフォームド・コンセントを取得するには上級医に同伴し、接遇態度、患者への説明、予備知識の重要性などについて学習します。医療チームの重要な一員としての責務（患者の診療、カルテ記載、病状説明など）を果たし、リーダーシップをとれる能力を獲得できるようにします。

## 9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11, 28】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。九州中央病院内科専門研修施設群研修施設は福岡県福岡・糸島医療圏、近隣医療圏の医療機関から構成されています。

九州中央病院は、福岡県福岡・糸島医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である九州大学病院、別府医療センター、九州がんセンター、製鉄記念八幡病院、地域基幹病院である福岡山王病院、原三信病院、福岡市民病院、宗像医師会病院、宗像水光会総合病院、済生会飯塚嘉穂病院、唐津赤十字病院、下関市立市民病院、福岡和白病院、浜の町病院、福岡赤十字病院、飯塚病院、九州労災病院および地域医療密着型病院である西福岡病院、白十字病院、福岡病院、千早病院、門司掖済会病院、今津赤十字病院(特別連携施設)で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。地域基幹病院では、九州中央病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

九州中央病院内科専門研修施設群(P19)は、福岡県福岡・糸島医療圏、近隣医療圏の医療機関から構成しています。最も距離が離れている別府医療センターは九州中央病院から電車を利用して、2 時間 30 分程度の移動時間です。指導医は専攻医と電話やメールなどを用いて密に連絡を取る事で連携に支障をきたすことのないように努めます。

特別連携施設である今津赤十字病院での研修は、九州中央病院のプログラム管理委員会と研修委員会とが管理と指導を行います。九州中央病院の担当指導医が、今津赤十字病院の上級医とともに、専攻医の研修指導にあたり、指導の質を保ちます。

## 10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28, 29】

九州中央病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主

担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。九州中央病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携・病診連携を中心に経験できます。

九州中央病は地域医療支援病院として近隣施設から多数の紹介があり、病診連携室の協力により90%を超える在宅復帰率で退院支援を行っています。当院で十分な地域医療を経験することができますが、さらに総合内科的に包括的な内科研修の希望があれば、より地域医療に密着した療養型病床を併設する連携施設・特別連携施設を3年目のローテーションで選択することが可能です。地域における指導の質および評価の正確さを担保するため、常にメールなどを通じて研修管理委員会と連絡ができる環境を整備し、定期的に基幹病院を訪れ指導医と面談し、プログラムの進捗状況を報告します。

### 11. 内科専攻医研修の概略図【整備基準16】

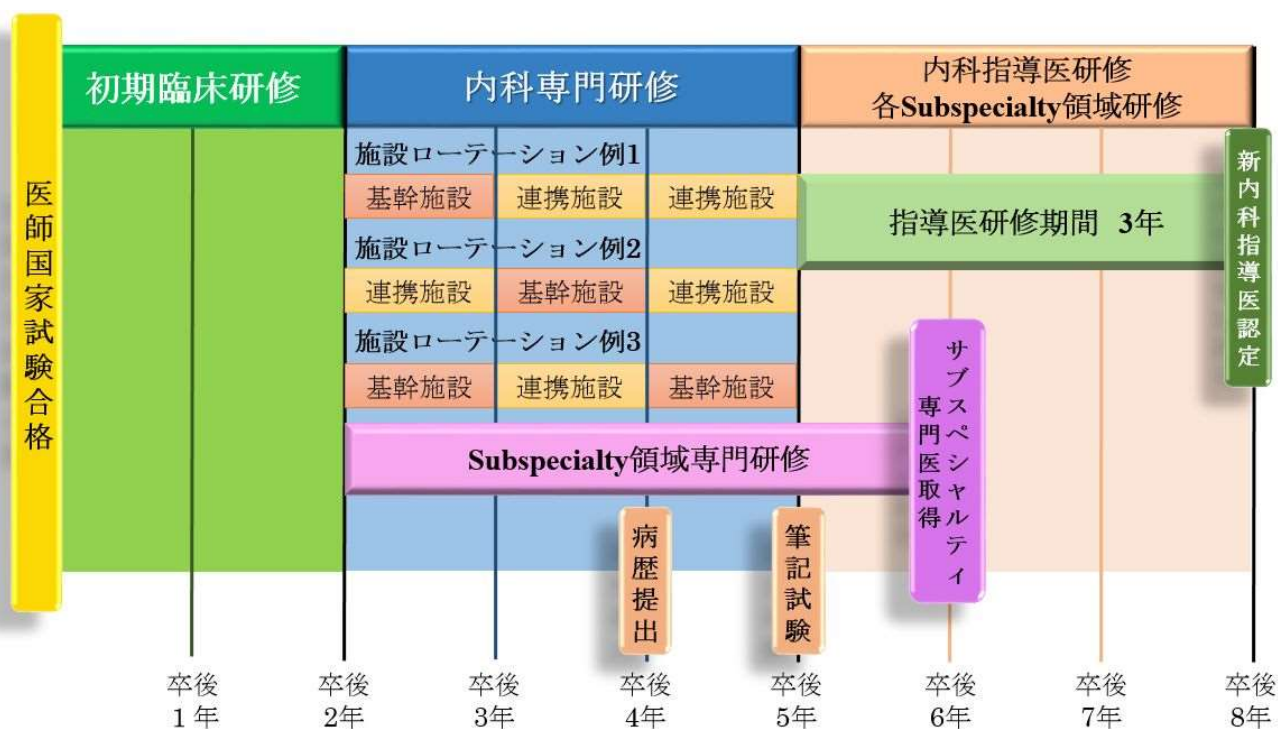


図1:九州中央病院内科専門研修プログラム(概念図)

基幹施設である九州中央病院内科および連携施設・特別連携施設で、専門研修（専攻医）2年目までの間に各1年間の専門研修を行います。

専攻医2年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専攻医）3年目の研修施設を調整し決定します（図1）。基本的には当院および連携施設のいずれにおいても1～4ヵ月間を1単位として各Subspecialty診療科をローテーションします（図2）。内科専門研修にあたってはその研修期間中にSubspecialty領域を研修する状況がありますが、この研修を基本領域のみの専門研修とするのではなく、Subspecialty領域の専門研修としても取り扱う事が可能です。但し、Subspecialty専門研修としての指導と評価はSubspecialty指導医が行う必要があります。研修する連携施設の選定は専

攻医と面談の上、希望する Subspecialty 領域の責任者とプログラム統括責任者が協議して決定します。なお、研修中の専攻医数や進捗状況により、初年度から連携施設での重点研修を行うことがありますが、3年間で内科専門研修を修了する事を前提に期間を設ける事なく Subspecialty 研修を並行して行う事を可能としています。

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	当院											
	内科1		内科2		内科3		内科4			内科5		
	プライマリケア当直研修 (1回/月：6ヶ月間)											
	1年目にJMECCを受講(プログラムの要件)											
2年目	連携施設A(幅広い分野の研修が可能)											
	内科6		内科7			内科8			内科9			
	初診+再診外来(1回/週) (プログラムの要件)									病歴提出準備		
3年目	連携施設a(限られた分野の研修が可能)											
その他のプログラム要件			安全管理・感染対策・医療倫理講習会(2回/年)、CPC受講									

図2 Subspecialty 診療科および連携施設ローテーション(例)

## 12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17, 19～22】

### 1) 九州中央病院臨床研修センターの役割

- ・九州中央病院内科専門研修管理委員会の事務局を行います。
- ・九州中央病院内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
- ・3か月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による J-OSLER への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・6か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・6か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- ・年に複数回（8月と2月、必要に応じて臨時に）、専攻医自身の自己評価を行います。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され、1か月以内に担当指導医によって専攻医に形式的にフィードバックを行って、改善を促します。
- ・臨床研修センターは、メディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8月と2月、必要に応じて臨時に）を行います。担当指導医、Subspecialty 上級医に加えて、内科各病棟看護師長・看護師、臨床検査・放射線技師、薬剤師から委員を指名し評価します。評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、臨床研修センターもしくは統括責

任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) に登録します (他職種は J-OSLER にアクセスしません)。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) を通じて集計され、担当指導医から形式的にフィードバックを行います。

・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット (施設実地調査) に対応します。

## 2) 専攻医と担当指導医の役割

・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医 (メンター) が九州中央病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。

・専攻医は J-OSLER にて日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認を J-OSLER 上で行ってフィードバックの後に J-OSLER 上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。

・専攻医は、1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群、60 症例以上の経験と登録を行うようにします。2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群、120 症例以上の経験と登録を行うようにします。3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群、160 症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します。

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。

・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。

・専攻医は、専門研修 (専攻医) 2 年修了時まで 29 症例の病歴要約を順次作成し、日本内科学会専攻医登録評価システム J-OSLER に登録します。担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理 (アクセプト) されるように病歴要約について確認し、形式的な指導を行う必要があります。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形式的評価に基づき、専門研修 (専攻医) 3 年次修了までにすべての病歴要約が受理 (アクセプト) されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形式的に深化させます。

## 3) 評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに九州中央病院内科専門研修管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

## 4) 修了判定基準【整備基準 53】

担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システム J-OSLER を用いて研修内容を評価し、以下

①～⑤の修了を確認します。

① 主担当医として「研修手帳 (疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上 (外来症例は 20 症例まで含むことができます) を経験することを目標とします。その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム J-OSLER に登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例 (外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます) を経験し、登録済み (P48 別表参照)。

② 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形式的評価後の受理 (アクセプト)



- ③ 所定の 2 編の学会発表または論文発表
- ④ JMECC 受講
- ⑤ プログラムで定める講習会受講 vi) 日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価 (内科専門研修評価) と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性

九州中央病院内科専門医研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約 1 か月前に九州中央病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

#### 5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」、 「指導医による指導とフィードバックの記録」 および「指導者研修計画 (FD) の実施記録」は、日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) を用います。なお、「九州中央病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】と「九州中央病院内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準 45】と別に示します。

### 13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34, 35, 37～39】 (P47「九州中央病院内科専門研修管理委員会」参照)

九州中央病院内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者、プログラム管理者 (診療部長)、事務局代表者、内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者 (診療科科長) および連携施設担当委員で構成されます。また、オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させる (P47 九州中央病院内科専門研修プログラム管理委員会参照)。九州中央病院内科専門研修管理委員会の事務局を、九州中央病院臨床研修センターにおきます。

九州中央病院内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します。委員長 1 名 (指導医) は、基幹施設との連携のもと、活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、毎年 6 月と 12 月に開催する九州中央病院内科専門研修管理委員会の委員として出席します。基幹施設、連携施設ともに、毎年 4 月 30 日までに、九州中央病院内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います。

- ① 前年度の診療実績：a) 病院病床数、b) 内科病床数、c) 内科診療科数、d) 1 か月あたり内科外来患者数、e) 1 か月あたり内科入院患者数、f) 剖検数
- ② 専門研修指導医数および専攻医数：a) 前年度の専攻医の指導実績、b) 今年度の指導医数/総合内科専門医数、c) 今年度の専攻医数、d) 次年度の専攻医受け入れ可能人数。
- ③ 前年度の学術活動：a) 学会発表、b) 論文発表
- ④ 施設状況：a) 施設区分、b) 指導可能領域、c) 内科カンファレンス、d) 他科との合同カンファレンス、e) 抄読会、f) 机、g) 図書館、h) 文献検索システム、i) 医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会、j) JMECC の開催。
- ⑤ Subspecialty 領域の専門医数：日本消化器病学会消化器専門医数、日本循環器学会循環器専門医数、日本内分泌学会専門医数、日本糖尿病学会専門医数、日本腎臓病学会専門医数、日本肝臓学会専門医数、日本呼吸器学会呼吸器専門医数、日本血液学会血液専門医数、日本神経学会神経内科専門医数、日本アレルギー学会専門医 (内科) 数、日本リウマチ学会専門医数、日本感染症学会専門医数、日本救急医学会救急科専門医数

#### 14. プログラムとしての指導者研修 (FD) の計画【整備基準 18, 43】

専攻医を指導し評価する指導医は下記の基準 (①～④は必須, ⑤か⑥は選択) を満たした内科専門医です。

- ① 内科専門医を取得.
- ② 専門医取得後に臨床研究論文 (症例報告含む) を発表, もしくは学位を取得.
- ③ 厚生労働省もしくは学会主催の指導医講習会を修了.
- ④ 内科医師として十分な診療経験.
- ⑤ CPC, CC, 学術集会などへ主導的に関与・参加
- ⑥ 日本内科学会での教育活動 (病歴要約の査読, JMECC のインストラクターなど)

2025 年までの移行期間は従来の指導実績から指導医資格が承認されていますが, 厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の未受講者は受講を推奨します. 内科専攻医の指導にあたり, 指導法の標準化と指導者研修 (FD) の実施記録のため, 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用し, 形式的に指導します. 指導医は常に専攻医のロールモデルになるよう研鑽に努めます.

#### 15. 専攻医の就業環境の整備機能 (労務管理)【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします. 専門研修 (専攻医) はその時点で所属する施設 (基幹病院, 連携施設, 特別連携施設) の就業環境に基づき就業します (P19「九州中央病院内科専門研修施設群」参照). 基幹施設である九州中央病院では以下を整備しています.

- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
- ・九州中央病院常勤医師として労務環境が保障されています.
- ・メンタルストレスに適切に対処するメンタルヘルスセンターがあります.
- ・ハラスメント委員会が庶務課に整備されています.
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています.
- ・敷地内に院内保育所があり, 利用可能です.

専門研修施設群の各研修施設の状況については, P19「九州中央病院内科専門施設群」を参照. また, 総括的評価を行う際, 専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い, その内容は九州中央病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが, そこには労働時間, 当直回数, 給与など, 労働条件についての内容が含まれ, 適切に改善を図ります.

#### 16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

- 1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) を用いて無記名式逆評価を行います. 逆評価は年に複数回行います. また, 年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には, 研修施設ごとに逆評価を行います. その集計結果は担当指導医, 施設の研修委員会, およびプログラム管理委員会が閲覧します. また集計結果に基づき, 九州中央病院内科専門研修プログラムや指導医, あるいは研修施設の研修環境の改善に役立ちます.
- 2) 専攻医等からの評価 (フィードバック) をシステム改善につなげるプロセス専門研修施設の内科専門研修委員会, 九州中央病院内科専門研修プログラム管理委員会, および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) を用いて, 専攻医の逆評価, 専攻医の研修状況を把握します. 把握した事項については, 九州中央病院内科専門研修



プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。

- ① 即時改善を要する事項
- ② 年度内に改善を要する事項
- ③ 数年をかけて改善を要する事項
- ④ 内科領域全体で改善を要する事項
- ⑤ 特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

- ・担当指導医，施設の内科研修委員会，九州中央病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし，九州中央病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して九州中央病院内科専門研修プログラムを評価します。
- ・担当指導医，各施設の内科研修委員会，九州中央病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし，自律的な改善に役立てます。状況によって，日本専門医機構内科領域研修委員会の支援，指導を受け入れ，改善に役立てます。

### 3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

九州中央病院臨床研修センターと九州中央病院内科専門研修プログラム管理委員会は，九州中央病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に，必要に応じて九州中央病院内科専門研修プログラムの改良を行います。九州中央病院内科専門研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

## 17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は，毎年7月から website での公表や説明会などを行い，内科専攻医を募集します。翌年度のプログラムへの応募者は九州中央病院臨床研修センターの website の九州中央病院医師募集要項（九州中央病院内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します。書類選考および面接を行い，九州中央病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し，本人に文書で通知します。

（問い合わせ先）九州中央病院臨床研修センター

E-mail: kenshu@kyushu.kouritu.or.jp      HP: <https://www.kyuchu.jp>

電話：092-541-4936（内線 3444 真田）

九州中央病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は，遅滞なく日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にて登録を行います。

## 18. 内科専門研修の休止・中断・移動の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には，適切に日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて九州中央病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し，担当指導医が認証します。これに基づき，九州中央病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が，その継続的研修を相互に認証するこ

とにより、専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから九州中央病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域から九州中央病院内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに九州中央病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしており、かつ休職期間が6ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1日8時間、週5日を基本単位とします）を行なうことによって、研修実績に加算します。留学期間は、原則として研修期間として認めません。

## 19. 九州中央病院内科専門研修施設群の構成

### A. 研修期間

下記の要件を備えた施設で3年間（基幹施設1～2年間＋連携施設・特別連携施設（最長1年間）1～2年間）の研修を行います。

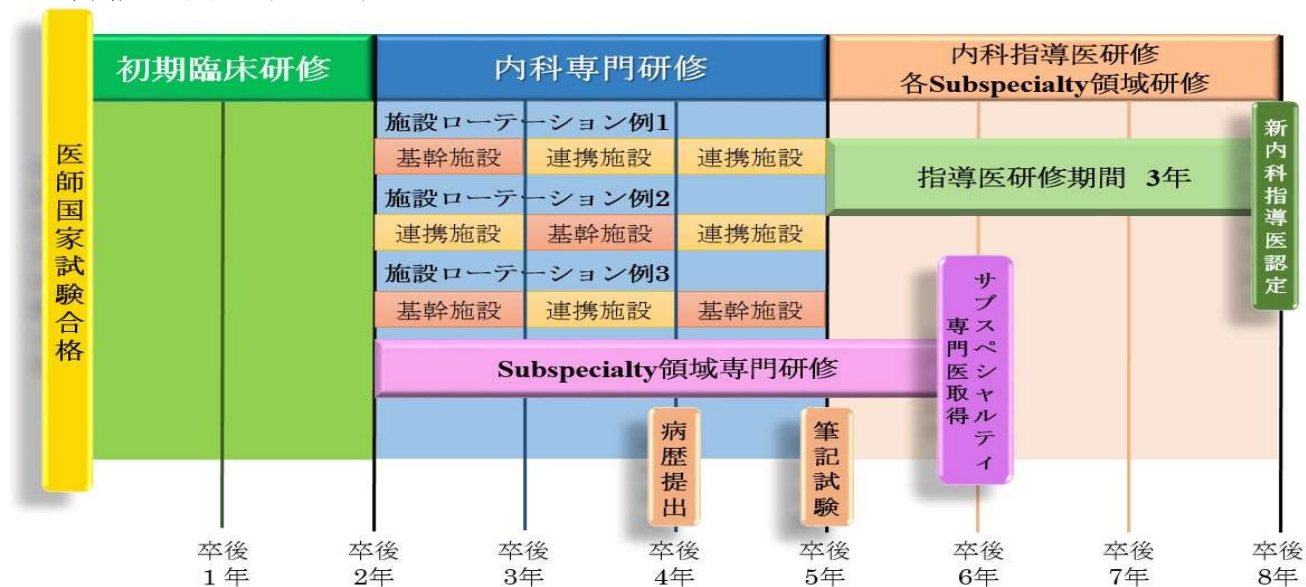


図1:九州中央病院内科専門研修プログラム(概念図)

表 1. 九州中央病院内科専門研修施設群研修施設

施設名	病床数	内科系病 床数	内科系診 療科数	内科指導 医数	総合内科 専門医数	内科剖検 数
九州大学病院	1,252	372	11	151	127	16
福岡赤十字病院	511	200	12	17	28	2
浜の町病院	468	220	13	13	24	3
独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター	549	345	12	23	23	8
北九州市立医療センター	636	201	13	13	13	9
松山赤十字病院	626	149	18	54	39	14
済生会福岡総合病院	380	192	10	11	5	7
社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院	1097	192	11	18	19	6
独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院	575	260	9	33	18	10
小倉記念病院	656	320	7	14	0	9
社会医療法人 製鉄記念八幡病院	453	203	8	14	6	11
唐津赤十字病院	304	84	9	6	12	4
下関市立市民病院	436	101	10	7	5	1
九州がんセンター	411	128	10	10	7	3
独立行政法人国立病院機構別府医療センター	492	166	9	15	15	3
白十字病院	282	140	9	17	8	1
国立病院機構 福岡病院	360	120	7	12	9	0
福岡市民病院	204	102	6	8	4	0
医療法人 原三信病院	359	180	7	13	17	0
和白病院	369	100	9	7	10	10
門司掖済会病院	199	130	8	6	6	1
宗像水光会総合病院	300	84	4	4	7	2
国家公務員共済組合連合会 千早病院	175	85	2	4	8	1
総合病院山口赤十字病院	427	98	8	7	13	1
福岡山王病院	199	100	9	13	12	1
今津赤十字病院	180	120	5	0	1	0
宗像医師会病院	164	125	8	2	3	0
済生会飯塚嘉穂病院	198	100	5	3	3	0
西福岡病院	238	190	9	7	3	0
永富脳神経外科病院	153	50	2	0	0	0
前田病院	129	127	8	3	5	0
飯塚病院	1,048	570	17	15	39	14
九州労災病院	450	160	6	10	8	1

表 2. 各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

施設名	[総合内科]	[消化器]	[循環器]	[内分泌]	[代謝]	[腎臓]	[呼吸器]	[血液]	[脳神経]	[アレルギー]	[膠原病]	[感染症]	[救急]
九州大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
福岡赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
浜の町病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
北九州市立医療センター	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○	○	○	○
松山赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
済生会福岡総合病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院	×	○	○	△	○	○	○	○	○	×	×	△	○
独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
小倉記念病院	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
社会医療法人 製鉄記念八幡病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
唐津赤十字病院	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○
下関市立市民病院	△	○	○	○	○	○	△	○	△	△	○	△	○
九州がんセンター	○	○	○	△	△	×	○	○	×	×	×	○	△
独立行政法人国立病院機構別府医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	△	△
白十字病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	△	△	○	○
国立病院機構 福岡病院	△	×	△	×	×	×	○	×	×	○	○	△	×
福岡市民病院	○	○	○	○	○	○	×	×	○	×	×	○	○
医療法人 原三信病院	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○
和白病院	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
門司掖済会病院	○	○	○	△	○	○	△	×	○	△	△	○	○
宗像水光会総合病院	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	×	○	○
国家公務員共済組合連合会 千早病院	△	○	○	○	×	×	○	○	×	×	○	△	△
総合病院山口赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	×	○	△	○	○	○
福岡山王病院	○	○	○	○	○	×	○	○	△	○	○	○	○
今津赤十字病院	△	×	△	×	×	△	△	×	○	×	×	×	×
宗像医師会病院	○	○	○	△	○	○	○	○	△	△	○	○	○
済生会飯塚嘉穂病院	○	○	○	○	○	△	○	△	△	△	△	○	○
西福岡病院	○	○	○	○	○	○	○	×	△	△	△	△	○
永富脳神経外科病院	×	×	△	△	×	×	×	×	○	×	×	△	○
前田病院	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△
飯塚病院	○	○	○	△	△	○	○	○	△	△	○	△	○
九州労災病院	○	○	○	○	○	△	×	○	○	△	○	○	×

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階（○，△，×）に評価しました（○：研修出来る △：時に研修出来る ×：ほとんど研修できない）。

## B. 専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。九州中央病院内科専門研修施設群研修施設は福岡県の医療機関から構成されています。

九州中央病院は、福岡県福岡・糸島医療圏の中心的な急性期病院です。そこでの研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である九州大学病院、別府医療センター、九州がんセンター、製鉄記念八幡病院、地域基幹病院である福岡山王病院、原三信病院、福岡市民病院、宗像医師会病院、宗像水光会総合病院、済生会飯塚嘉穂病院、唐津赤十字病院、下関市立市民病院、福岡和白病院、浜の町病院、福岡赤十字病院、飯塚病院、九州労災病院および地域医療密着型病院である西福岡病院、白十字病院、福岡病院、千早病院、門司掖済会病院、今津赤十字病院(特別連携施設)で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。

地域基幹病院では、九州中央病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

## C. 専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

- ・ 研修施設の選択は専攻医の希望・将来像などを基に行います。
- ・ 専攻医 3 年間のうちの 1~2 年間、連携施設・特別連携施設で研修をします（図 1）。なお、研修達成度によっては Subspecialty 研修も可能です（個々人により異なります）。

## D. 専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

福岡県福岡・糸島医療圏と近隣医療圏にある施設から構成しています。最も距離が離れている別府医療センターは九州中央病院から電車を利用して、2 時間 30 分程度の移動時間です。指導医は専攻医と電話やメールなどを用いて密に連絡を取る事で連携に支障をきたすことのないように努めます。

## 1). 専門研修基幹施設

九州中央病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・九州中央病院常勤医師として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処するメンタルヘルスセンターがあります。</li> <li>・ハラスメント委員会が庶務課に整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医は9名在籍しています（下記）。</li> <li>・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</li> <li>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に行い（2023 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（胃腸カンファレンス、呼吸器疾患勉強会、九中循環器医療連携勉強会、南区糖尿病を考える会、救急医療勉強会、がん診療研修会など）を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。</li> <li>・特別連携施設は現時点では本プログラムには含まれていませんが、今後地域医療を鑑み、本プログラムにおける必要性が認められた際には追加を検討します。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。</li> <li>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。</li> <li>・専門研修に必要な剖検（2023 年度 8 件）を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。</li> <li>・倫理委員会を定期開催しており、2017 年度には臨床倫理委員会を発足しました。</li> <li>・治験管理室を設置し、定期的な受託研究審査会を開催（2023 年度実績 11 回）しています。</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 5 演題以上の学会発表（2023 年度実績 8 演題、研修医奨励賞を 2 回受賞）をしています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>竹迫 仁則</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>九州中央病院は、福岡市南区大橋駅から徒歩 5 分に位置した 330 床の急性期病院であり、10 つの内科系診療科（総合内科、糖尿病・内分泌内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、肝臓内科、膵臓内科、脳神経内科、腎臓内科、心療内科）と救急部により、内科領域全般の疾患を研修できる体制が敷かれています。特に、救急搬入件数は年間約 5000 台で、各専門内科の</p>

	24 時間オンコール体制の支援により、プライマリーケアから専門内科での緊急対応まで充実した研修が行えます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 9 名, 日本内科学会総合内科専門医 17 名 日本消化器病学会消化器専門医 2 名, 日本循環器学会循環器専門医 3 名, 日本糖尿病学会専門医 2 名, 日本腎臓学会専門医 2 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名, 日本肝臓学会専門医 3 名, 日本神経学会神経内科専門医 2 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 4871 名 (月平均) 入院患者 460 名 (月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本透析医学会教育関連施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本カプセル内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 など

## 2). 専門研修連携施設

### 1. 九州大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・九州大学シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署 (健康管理室) があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が九州大学に整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり, 病児保育, 病後児保育を含め利用可能です。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 151 名在籍しています (下記)。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し, 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催 (2014 年度実績 医療倫理 1 回(4 月に就職時に参加が必須。今後は年度内に複数回の定期開催を予定), 医療安全 40 回, 感染対策 40 回) し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンス (2017 年度予定) を定期的に参加し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的開催 (2023 年度実績 26 回) し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>



	<p>●地域参加型のカンファレンスを（2015年度実績6回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、リウマチ、膠原病、感染症および救急の全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2021年度実績35演題）をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>南 満理子 【内科専攻医へのメッセージ】 九州大学病院は福岡県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムでは初期臨床研修修了後に協力病院として大学病院の内科系診療科も加わることで、リサーチマインドの育成などを含む質の高い内科医の育成を目指します。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全・倫理を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医151名、日本内科学会総合内科専門医127名 日本消化器病学会消化器専門医38名、日本循環器学会循環器専門医27名、 日本内分泌学会専門医14名、日本糖尿病学会専門医15名、 日本腎臓病学会専門医12名、日本呼吸器学会呼吸器専門医14名、 日本血液学会血液専門医10名、日本神経学会神経内科専門医19名、 日本アレルギー学会専門医(内科)7名、日本リウマチ学会専門医4名、 日本感染症学会専門医10名、日本救急医学会救急科専門医5名、 老年医学会5名、肝臓学会14名、消化器内視鏡学会25名、臨床腫瘍学会8名 他</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>内科系外来患者16,570名(1ヶ月平均)内科系入院患者10,885名(1ヶ月平均延数)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本心療内科学会専門医研修施設</p>

	<p>日本心身医学会研修診療施設          日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設          日本東洋医学会教育病院          日本臨床腫瘍学会認定研修施設          日本肥満学会認定肥満症専門病院          日本感染症学会認定研修施設          日本がん治療認定医機構認定研修施設          日本高血圧学会高血圧認定研修施設          ステントグラフト実施施設          日本緩和医療学会認定研修施設          日本認知症学会教育施設          日本救急医学会救急科専門医指定施設          日本心血管インターベンション治療学会研修施設          など</p>
--	--

2. 独立行政法人 国立病院機構 別府医療センター

<p>認定基準  <b>【整備基準 23】</b>          1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・国立病院機構期間医師として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準  <b>【整備基準 23】</b>          2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 15 名在籍しています（下記）。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>認定基準  <b>【整備基準 23/31】</b>          3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野全領域で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 3）を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準  <b>【整備基準 23】</b>          4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。</li> <li>・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2015 年度実績 11 回）しています。</li> <li>・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2014 年度実績 12 回）しています。</li> <li>・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>鶴田 悟  <b>【内科専攻医へのメッセージ】</b>          当院は、大分県北の中核病院で、幅広い患者層が来院します。ほぼ全科がそろっておりあらゆる疾患に対応することができます。将来の Subspecialty を見据えた Hospitalist としての技術を磨くことができます。また、当院は院外の研修、学会での発表や論文作成にも力を入れており、常に学び、臨床の成果を発表できる内科医を養成します。</p>

	当院は 20 名程度の研修医を擁しており、後輩たちを指導することにより知識・スキルを更にしっかりと自分のものにすることができるようになります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 15 名, 日本内科学会総合内科専門医 15 名 血液専門医 1 名、透析専門医 3 名、腎臓専門医 3 名、 神経内科専門医 1 名、消化器病専門医 5 名、肝臓専門医 4 名、 消化器内視鏡専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 リウマチ専門医 3 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 10,834 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 283 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	1) 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群のうち, 全てを経験できます。
経験できる技術・ 技能	1) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 2) ほぼすべての科に専門医がいますので, 総合内科のみならず Subspecialty の技術についても更に身に着けることができます。
経験できる地域医療・ 診療連携	ドクターヘリで来院する超急性期から、地域に根ざした医療、病診・病病連携など幅広い地域医療を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 など

## 2. 独立行政法人 国立病院機構 別府医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・国立病院機構期間医師として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署 (人事課職員担当) があります。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, シャワー室, 当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり, 利用可能です。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 11 名在籍しています (下記) 。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し, 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンス (2017 年度予定) を定期的に参加し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野全領域で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 2）を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2015 年度実績 11 回）しています。</li> <li>・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2014 年度実績 12 回）しています。</li> <li>・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。</li> </ul>
指導責任者	<p>末永康夫</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は、大分県北の中核病院で、幅広い患者層が来院します。ほぼ全科がそろっておりあらゆる疾患に対応することができます。将来の Subspecialty を見据えた Hospitalist としての技術を磨くことができます。また、当院は院外の研修、学会での発表や論文作成にも力を入れており、常に学び、臨床の成果を発表できる内科医を養成します。</p> <p>当院は 20 名程度の研修医を擁しており、後輩たちを指導することにより知識・スキルを更にしっかりと自分のものにすることができるようになります。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 5 名 日本内分泌代謝科専門医 1 名、透析専門医 1 名、腎臓専門医 1 名、 神経内科専門医 1 名、消化器病専門医 4 名、肝臓専門医 2 名、 消化器内視鏡専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、 リウマチ専門医 2 名、ほか</p>
外来・入院患者数	外来患者 9,840 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 234 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	1) 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群のうち, 全てを経験できます。
経験できる技術・技能	<p>1) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p> <p>2) ほぼすべての科に専門医がいますので、総合内科のみならず Subspecialty の技術についても更に身に着けることができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	ドクターヘリで来院する超急性期から、地域に根ざした医療、病診・病病連携など幅広い地域医療を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設</p>

	日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 など
--	--

### 3. 国立病院機構 九州がんセンター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・国立病院機構非常勤医師として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（管理科職員担当）があります。</li> <li>・監査・コンプライアンス室が国立病院機構本部に整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が9名在籍しています。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、消化器、肝臓、代謝、呼吸器および血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・専門研修に必要な剖検を行っています。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。</li> <li>・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。</li> <li>・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。</li> <li>・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。</li> </ul>
指導責任者	杉本理恵 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は九州で唯一のがん専門病院です。がんの早期発見やステージングの為に様々なデバイスを用いた適格な診断方法、標準的化学療法や放射線治療などを組み合わせた集学的治療、希少がんの診断と治療、薬物や内視鏡治療などを含めた多面的な緩和治療、さらに在宅支援や緩和ケア病院との地域連携、様々な治験や臨床研究、がんの栄養療法などがんに関する様々な事を学び、技術を習得できます。またがん診療のみならず付随しておこる感染症や代謝性疾患などの内科疾患についても幅広く経験することができます。当院で研修することで内科専門医のみならず subspeciality の資格を得るためにも必要な症例を担当することができます。ぜひ我々と一緒にがんの high volume center で研修してみませんか。

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 9名, 日本内科学会総合内科専門医 14名 日本消化器病学会消化器専門医 6名, 指導医 3名、 日本循環器学会循環器専門医 1名、 日本肝臓学会専門医 3名、指導医 2名 日本血液学会血液専門医 4名、指導医 3名 臨床腫瘍学会薬物療法専門医 5名、指導医 4名, 日本内視鏡学会専門医 1名 がん治療認定医 5名、暫定指導医 2名 日本呼吸器学会指導医 1名、日本膵臓学会指導医 3名、老年医学会指導医 1名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 7,492名 (1ヶ月平均) 入院患者 651名 (1ヶ月平均)
経験できる疾患群	1) 研修手帳(疾患群項目表)にある13領域, 70疾患群のうち, 全ての固形癌, 血液腫瘍の内科治療を経験でき, 付随するオンコロジーエマーゼンシー, 緩和ケア治療, 終末期医療等についても経験できます。 2) 研修手帳の一部の疾患を除き, 多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について, がんとの関連の有無を問わず幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	1) 日本屈指のがん専門病院において, がんの診断, 抗がん剤治療(標準治療, 臨床試験・治験), 緩和ケア治療, 放射線治療, 内視鏡検査・治療, インターベンショナルラジオロジーなど, 幅広いがん診療を経験できます。 2) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療, 終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本肝臓学会認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器学会関連施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本乳癌学会認定施設 日本放射線腫瘍学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本病理学会研修認定施設 B 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 など

#### 4. 社会医療法人 製鉄記念八幡病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・常勤医師として採用し勤務環境を保障しています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署(人事課)があり、1回/年のストレスチェックを実施しています。</li> </ul>
--------------------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過勤務は毎月人事課より幹部会議に報告され、長時間勤務者は病院長による面談により状況把握並びに改善策を検討しています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室、仮眠室、休憩室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、365日24時間利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が9名在籍しています（下記）。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015年度実績 医療倫理1回、医療安全2回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に開催（2015年度実績8回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器、腎臓、神経および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・専門研修に必要な剖検（2015年度実績10体）を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準23】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2014年度実績3演題）をしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2014年度実績3回）しています。</li> <li>・臨床研究支援室を設置し、定期的に治験審査会を開催（2014年度実績6回）しています。</li> <li>・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>古賀徳之 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は内科が主体の病院です。総合内科、消化管、肝臓、循環器、糖尿病、呼吸器、腎臓、神経、救急において、高度急性期医療から回復期、在宅、終末期医療までチーム医療や地域医療との診療連携も含めた十分な研修ができます。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 13名、日本内科学会総合内科専門医 6名 日本消化器病学会消化器専門医 4名、日本循環器学会循環器専門医 4名、 日本糖尿病学会専門医 3名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2名、 日本腎臓学会専門医 4名、日本肝臓学会専門医 2名、 日本救急医学会専門医 1名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 498名（1日平均） 入院患者 346名（1日平均）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群のうち、血液、膠原病、内分泌を除く疾患群の内科診療を経験できます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>1) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます 2) 特に冠動脈、脳血管、シャントをはじめとする心血管インターベンション、がんの診断、抗がん剤治療、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療などを経験できます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>近隣のクリニックとの前方連携、療養型病院との後方連携による地域医療・診療連携を経験できます。また高齢者総合評価に基づく高齢者在宅復帰に向けチーム医療を経験できます</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本高血圧学会専門医認定施設</p>

	<p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設          日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設          日本心身医学会認定医制度研修診療施設          日本腎臓学会認定研修施設          日本透析医学会教育関連施設          日本糖尿病学会認定教育施設          日本消化器病学会認定施設          日本消化管学会胃腸科指導施設          日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設          日本呼吸器学会認定施設          日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設          日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設          日本乳癌学会関連施設          日本がん治療認定医機構認定研修施設          日本緩和医療学会認定研修施設          日本老年医学会認定研修施設          日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院          日本静脈経腸栄養学会NST実地修練認定教育施設          日本栄養療法推進協議会NST稼働施設          日本病理学会研修認定施設B          日本臨床細胞学会施設認定、教育研修施設、コントロールサーベイ          など</p>
--	---

5. 福岡山王病院

<p>認定基準  <b>【整備基準 23】</b>          1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・常勤医として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。</li> <li>・監査・コンプライアンスはグループ本部（東京事務所）で整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準  <b>【整備基準 23】</b>          2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 13 名在籍しています。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（救急隊との勉強会など）を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>認定基準  <b>【整備基準 23/31】</b>          3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、代謝、呼吸器、神経および血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。総合内科、内科救急、感染症分野でも患者を受け入れており、研修可能です。</li> <li>・専門研修に必要な剖検を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準  <b>【整備基準 23】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理委員会を設置し、定期的に行っています。</li> <li>・治験管理委員会を設置し、定期的に行っています。</li> </ul>



4)学術活動の環境	・内科各分野の学会で学会発表を行うほか、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われており、専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があります。
指導責任者	徳松 誠 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡山王病院は、「生命（いのち）の尊厳、生命（いのち）の平等」の理念のもとに、2009年5月、国際医療福祉大学・医療法人社団高邦会グループの一員として福岡市百道浜に開院した、21世紀の先端医療を担う総合病院です。最高の医師・医療スタッフによって、最新の医療機器を駆使した、質の高い医療の提供に努めています。専門性の高い不整脈の治療カテーテルアブレーションや心臓カテーテル治療、消化器内視鏡検査やてんかんの診断・治療のほか、予防医学（人間ドック）やリハビリテーションにも注力していますので、予防からリハビリまで、総合的に最良の研修が行える環境にあります。「断らない医療」を基本方針とし救急の対応にも注力しています。幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 13名、 日本内科学会総合内科専門医 12名、 日本消化器病学会消化器指導医 2名、同専門医 7名、 日本循環器学会循環器専門医 7名、 日本肝臓学会専門医 2名 日本内分泌学会指導医 2名・同専門医 2名、 日本糖尿病学会指導医 1名・同専門医 2名 日本血液学会血液専門医 1名、 日本神経学会指導医 2名・同専門医 5名 日本救急医学会専門医 1名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 6,894名（1ヶ月平均） 入院患者 2,100名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	1) 研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群のうち、消化器、循環器、内分泌・代謝、呼吸器、血液、アレルギー（全身疾患、膠原病、感染症（ウイルス疾患）、救急等について経験できます。 2) 研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について幅広く経験することが可能です。 3) 予防医学（人間ドック）、リハビリテーションも経験可能です。
経験できる技術・技能	1) 内科各分野の基本的診断法、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジー、放射線診断・治療など、幅広い診療技術を経験できます。 2) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域の医療機関と連携しており、それらの医療施設との診療連携を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本呼吸器学会認定関連施設 日本アレルギー学会専門医教育研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本病理学会研修登録施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本神経学会准教育施設

	日本てんかん学会専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本乳癌学会関連施設 日本ペインクリニック学会専門医指定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本麻酔科学会認定施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 など
--	---

## 6. 医療法人 原三信病院

認定基準 <b>【整備基準 23】</b> 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています。</li> </ul>
認定基準 <b>【整備基準 23】</b> 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医、専門医等が下記の通り在籍しています。</li> <li>・教育研修委員会があり、施設内の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2014年度実績 医療倫理3回，医療安全2回，感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を開催（2019年度実績1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（地元医師会勉強会窓）専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 <b>【整備基準 23/31】</b> 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科，消化器，循環器，代謝，呼吸器および血液の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・専門研修に必要な剖検（2019年度実績1体）を行っています。</li> </ul>
認定基準 <b>【整備基準 23】</b> 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2014年度実績1演題）をしています。</li> <li>・臨床研究倫理審査委員会を設置し、定期的に行う（2014年度実績12回）しています。</li> <li>・治験事務局を設置し、定期的に行う臨床研究倫理審査委員会を開催（2014年度実績12回）しています。</li> <li>・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も行われています。</li> </ul>
指導責任者	古藤和浩 <b>【内科専攻医へのメッセージ】</b> 福岡県内でも有数のがん治療病院として、がんの診断，抗がん剤治療（標準治療，臨床試験・治験），緩和ケア治療，放射線治療，内視鏡検査・治療，訪問看護ステーションを設置し，終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携についても経験できます。また，多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について，がんとの関連の有無を問わず幅広く研修を行うことができます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 2名，日本内科学会総合内科専門医 17名 日本消化器病学会消化器専門医 5名，日本循環器学会循環器専門医 4名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3名，日本肝臓学会専門医 1名 日本血液学会血液専門医 4名，日本腎臓学会専門医 4名ほか
外来・入院患者数	外来患者 514名（1日平均） 入院患者 289名（1日平均）
経験できる疾患群	1) 研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群のうち，全ての固形

	<p>癌，血液腫瘍の内科治療を経験でき，付随するオンコロジーエマージェンシー，緩和ケア治療，終末期医療等についても経験できます。</p> <p>2) 研修手帳の一部の疾患を除き，多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について，がんと関連の有無を問わず幅広く経験することが可能です。</p>
経験できる技術・技能	<p>1) 福岡県内でも有数のがん治療病院として，がんの診断，抗がん剤治療（標準治療，臨床試験・治験），緩和ケア治療，放射線治療，内視鏡検査・治療等幅広いがん診療を経験できます。又，心血管インターベンション治療を含め幅広く内科救急医療を経験でき，技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>在宅緩和ケア治療，終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本腎臓学会研修施設  日本血液学会認定血液研修施設  非血縁者間骨髄採取・移植認定施設  非血縁者間末梢血管幹細胞採取認定施設  非血縁者間造血幹細胞移植認定施設  日本呼吸器学会認定施設  日本呼吸器内視鏡学会認定施設  日本消化器内視鏡学会指導施設  日本消化器病学会認定施設  日本消化管学会胃腸科指導施設  日本病院総合診療医学会認定施設  日本循環器学会認定循環器専門医研修施設  日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設  日本脈管学会認定研修関連施設  浅大腿動脈ステントグラフト実施施設  日本高血圧学会認定施設  日本透析医学会教育関連施設  福岡県肝疾患専門医療機関  日本がん治療認定医機構認定研修施設  日本臨床細胞学会認定施設  日本外科学会外科専門医制度修練施設  日本外科学会関連研修施設  日本消化器外科学会専門医修練施設  日本乳癌学会認定施設  日本内分泌外科学会専門医制度関連施設  乳房エキスパンダー実施施設  日本整形外科学会専門医研修施設  日本泌尿器科学会専門医教育施設  日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設  日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関  日本医学放射線学会画像診断管理認証施設  日本放射線腫瘍学会認定施設  日本ハイパーサーミア学会認定施設  日本麻酔科学会麻酔科認定病院  日本静脈経腸栄養学会認定 NST 稼働施設  日本口腔外科学会認定准研修施設  臨床研修病院  健康保険組合連合会指定日帰りドック実施施設  人間ドック健診専門医研修施設  など</p>

7. 地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市民病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・地方独立行政法人福岡市立病院機構有期職員として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課担当）があります。</li> <li>・セクシュアル・ハラスメントの対策等に関する委員会が機構本部に整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。</li> <li>・同一機構である福岡市立こども病院敷地内に院内保育所があり，利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 8 名在籍しています（下記）。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・本院での CPC，または九州大学形態機能病理学教室で実施される病理解剖の参加を専攻医に義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，神経，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>小柳 年正 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡市民病院は，高度救急・高度専門医療を提供する地域の中核病院であり，九州大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会総合内科専門医 4 名、日本内科学会指導医 3 名、日本循環器学会専門医 2 名、日本消化器病学会指導医 2 名、日本消化器病学会専門医 2 名、日本肝臓学会指導医 1 名、日本肝臓学会専門医 1 名、日本消化管学会胃腸科指導医 1 名、日本消化管学会胃腸科専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 1 名、日本心血管インターベンション治療学会専門医 1 名、日本神経学会指導医 1 名、日本神経学会専門医 1 名、日本腎臓学会専門医 1 名、日本糖尿病学会指導医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本内分泌学会指導医 1 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本脳卒中学会指導医 1 名、日本脳卒中学会専門医 1 名、日本病態栄養学会研修指導医 1 名、日本病態栄養学会専門医 1 名</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 4,293 名（1 ヶ月平均延数） 入院患者 4,406 名（1 ヶ月平均延数）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 8 領域の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設（新制度） 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設（旧制度） 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本神経学会専門医制度教育関連施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本脳神経血管内治療学会専門医制度研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本病態栄養学会認定栄養管理・NST実施施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本腎臓学会研修施設

## 8. 宗像医師会病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・非常勤医師としての労務環境は院内の規定に基づいて保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに対しては院内の産業医が対処します。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、当直室が整備されています。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が2名在籍しています（下記）。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し（2022年度 医療安全2回、感染対策2回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科・消化器・循環器・代謝・腎臓・呼吸器・膠原病・感染症・血液および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表（2020年度実績 1 演題）をしています。</li> <li>・倫理委員会を設置し、定期的に参加（2022年度実績 1 回）しています。</li> <li>・必要に応じて、治験審査委員会を開催しています。</li> <li>・専攻医が学会に参加・発表する機会があります。</li> </ul>
指導責任者	伊東裕幸 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は宗像地区の地域支援病院として地域の診療所と連携しながら医療を提供しており、「お互いの顔の見える病診連携」を目指しています。

	内科医として消化器・循環器・呼吸器・膠原病・腎臓病・代謝・血液を中心に幅広い症例を経験できます。消化器癌に関しては、内科・外科・放射線科が密に連絡を取りながら診断、治療を行なっています。緩和ケア病棟では、緩和ケア治療、終末期医療についても経験することができます。患者さんの高齢化に伴い、患者さんの内科的疾患を治療するだけでなく、認知症のケアや社会的背景などを加味した対応を行なっていく必要がしばしば生じており、他職種での協働作業を進めることとなります。当院での研修を通じて全人的な医療を行なえる内科医が育つことを期待します。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 2名 日本内科学会総合内科専門医 6名 日本循環器学会専門医 1名 日本リウマチ学会専門医 2名 日本糖尿病学会専門医 1名 日本腎臓学会専門医 2名 日本透析学会専門医 2名
外来・入院患者数	外来患者 3,707名 (1ヶ月平均) 入院患者 193名 (1ヶ月平均)
経験できる疾患群	1) 研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群のうち、総合内科・消化器・循環器・代謝・腎臓・呼吸器・膠原病・感染症・血液および救急を中心とした内科疾患を幅広く経験できます。終末期医療や在宅診療についても経験できます。
経験できる技術・技能	1) 消化管内視鏡による消化管検査・処置、超音波検査(腹部、心臓、血管、甲状腺、関節など) 2) 人工透析、腹膜透析 3) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	希望に応じて当院、地域の診療所や訪問看護ステーションなどで在宅医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本リウマチ学会教育施設 日本循環器学会研修関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本乳癌学会関連施設 日本病理学会登録施設 日本リウマチ財団災害時リウマチ患者支援事業協力医療機関

## 9. 宗像水光会総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・常勤医師として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が8名在籍しています(下記)。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2014年度実績 医療</li> </ul>

	<p>倫理 2 回, 医療安全 2 回, 感染対策 2 回) し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修施設群合同カンファレンス (2017 年度予定) を定期的に参画し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます.</li> <li>・CPC を定期的に開催 (2014 年度実績 2 回) し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます.</li> <li>・地域参加型のカンファレンス (2014 年度実績地元医師会合同勉強会 3 回, 多地点合同メディカル・カンファレンス 2 回) を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます.</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.</li> <li>・専門研修に必要な剖検 (2014 年度実績 1 体) を行っています.</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表 (2014 年度実績 1 演題) をしています.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理委員会を設置し, 定期的に開催 (2014 年度実績 3 回) しています.</li> <li>・専攻医が学会に参加・発表する機会があり, 和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も支援しています.</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>古野 貴 【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>宗像医療圏の中核病院として、高度急性期から回復期までの医療を提供しています。特に循環器では外科とも連携し幅広い疾病に対応するとともに、在宅（訪問）診療や介護・福祉施設との地域医療・診療連携についても経験できます。また、多数の外来・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く研修を行うことができます。幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 8 名, 日本内科学会総合内科専門医 2 名 日本消化器病学会消化器専門医 1 名, 日本循環器学会循環器専門医 5 名, 日本糖尿病学会専門医 1 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名, 日本心血管インターベンション治療学会指導医 2 名ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者名 13,000 人 (1 ヶ月平均) 入院患者 450 名 (1 ヶ月平均)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>1) 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の全ての症例が経験可能である 2) 一般外来、救急外来・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く経験することが可能です。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>1) 循環器の分野では PCI、アブレーションだけでなく ICD 埋め込みなど幅広く処置、手術が経験できます。</p> <p>2) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>在宅医との連携、介護施設等とのネットワークにより地域医療・診療連携を経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本脈管学会認定研修指定施設 など</p>

## 10. 済生会飯塚嘉穂病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が4名在籍しています</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科，消化器，内分泌代謝，呼吸器の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理委員会を設置し、定期的開催（2022 年度実績 3 回）しています。</li> <li>・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。</li> </ul>
指導責任者	<p>土田 治</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当病院は内分泌糖尿病、呼吸器内科、消化器内科、心療内科などの内科系専門医が在籍しており、十分に専門的研修をうけられるよう体制を整備しています。また当院の特徴として専門的な治療だけでなく内科系のジェネラリストとして疾患のみでなく病める患者さん本人を包括的に診察していけるような指導を心掛けています。緩和ケア医療、終末期医療、回復期医療、包括ケア医療などの地域医療・診療連携についても専門医の指導の下、十分に経験をすることができます。</p>
指導医数 (常勤医)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本糖尿病学会 専門医 2名</li> <li>日本糖尿病学会 研修指導医 1名</li> <li>日本内分泌学会 内分泌代謝科 専門医 1名</li> <li>日本内分泌学会 内分泌代謝科 指導医 1名</li> <li>日本内科学会 総合内科専門医 5名</li> <li>日本臓器学会 指導医 1名</li> <li>日本消化器病学会 専門医 2名</li> <li>日本消化器病学会 指導医 1名</li> <li>日本心療内科学会 専門医 1名</li> <li>日本心身医学会・日本心療内科学会 専門医 1名</li> <li>日本心身医学会・日本心療内科学会 指導医 1名</li> <li>日本循環器学会 循環器専門医 1名</li> </ul>
外来・入院患者数	外来患者 4094.3 名 (1 ヶ月平均) 入院患者名 131.5 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群のうち, common disease である内分泌糖尿病、呼吸器、神経、血液・膠原病、心身疾患の治療を経験でき、緩和ケア治療、終末期医療、包括ケア医療、回復期医療等についても経験できます。
経験できる技術・技能	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 内分泌・糖尿病、呼吸器、血液・膠原病、神経内科、消化器疾患の診断、治療</li> <li>2) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</li> </ol>
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療、回復期医療、包括ケア医療などの医療・診療連携を経験できます。



学会認定施設 (内科系)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本糖尿病学会認定教育施設</li> <li>・日本呼吸器学会関連施設</li> <li>・日本緩和医療学会 認定研修施設</li> <li>・日本呼吸器学会 関連施設</li> <li>・日本消化器内視鏡学会 指導連携施設</li> <li>・日本心身医学会・日本心療内科学会合同心療内科専門医研修診療施設</li> </ul>
-----------------	---

## 11. 唐津赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・労働基準法に従い、唐津赤十字病院として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）があります。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・隣接して保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が8名在籍しています。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2020年度、2021年度の実績は、医療安全2回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPCを定期的開催（2020年度9回、2021年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス、地域がん診療連携拠点病院公開講演会等（2020年度実績2回、2021年度実績7回）を2022年度は9回開催を予定し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、アレルギー、感染症、救急の分野において定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。一方で内分泌、膠原病分野は症例数が若干少ない疾患群もあります。</li> <li>・なお、専門研修に必要な剖検（2020年度実績8体、2021年度4体）を実施しています。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本内科学会講演会および地方会に定期的に学会発表をしています（2020年実績1回、2021年度実績3回）。</li> <li>・医学研究倫理委員会を設置し、必要時に開催（2020年度実績13回、2021年度実績21回）しています。</li> <li>・専攻医は国内外での学会に参加、発表する機会があり、和文・英文論文の執筆も励行しています。</li> </ul>
指導責任者	<p>下田慎治</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>唐津赤十字病院は佐賀県北部において総合診療機能を有する唯一の病院であり、地域救命救急医療センター、災害医療、緊急被ばく医療、さらに地域医療支援病院、がん診療拠点病院など多くの機能を担っています。このためほとんどの領域で多くの症例を経験できます。</p> <p>九州大学病院を基幹施設とする内科研修プログラムの連携施設として優れた内科専門医を育てたいと思っております。</p>

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 6名, 日本内科学会総合内科専門医 12名 日本消化器病学会指導医 3名, 日本インターベンション治療学会指導医 1名 日本血液学会血液指導医 3名, 日本循環器学会循環器専門医 1名, 日本糖尿病学会専門医 1名, 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 1名,
外来・入院患者数	外来患者 9272名 (1ヶ月平均) 入院患者 6910名 (1ヶ月平均)
経験できる疾患群	・きわめてまれな疾患を除いて, 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を経験できます。
経験できる技術・ 技能	・技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能は幅広く 経験できます。また, 消化器内視鏡検査・治療, 冠動脈インターベンシ ョン, がんの診断・治療 (内視鏡治療, 化学療法, 放射線治療), 緩和 ケアなども幅広く経験できます。
経験できる地域医 療・診療連携	・急性期医療のみならず, 高齢化率が 25%を超えた当地域の背景を踏まえ た病診・病病連携を学ぶことができます。 なお, 佐賀県内では佐賀県診療録地域連携システム (通称ピカピカリン ク) が運用されていて ICT を活用した診療情報データの共有に関しても経験 できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器学会関連施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器病学会専門医制度関連施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 救急科専門医指定施設 日本救急医学会救急科専門医指導施設 日本救急医学会指定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本糖尿病学会教育関連施設 日本乳癌学会関連施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本病理学会研修登録施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 など

## 12. 下関市立市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・地方独立行政法人下関市立市民病院正規職員医師として労務環境が保障されて います。
-------------------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。</li> <li>・コンプライアンスに対する院内研修を行っています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。</li> </ul>										
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が7名在籍しています（下記）。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療安全・感染管理対策講習会を定期的に開催し，専攻医に年2回の受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・医療倫理講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付けており，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に開催（2021 年度実績 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>										
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，血液および膠原病の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・剖検（2020 年度実績 2 体）を行っています。</li> </ul>										
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本内科学会地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2021 年度実績 1 演題）をしています。</li> <li>・専攻医が学会に参加・発表する機会があります。</li> </ul>										
指導責任者	金子武生 【内科専攻医へのメッセージ】 地域の急性期病院として様々な分野の症例を経験することができます。幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。										
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 4 名， 日本消化器病学会消化器専門医 1 名，日本循環器学会循環器専門医 3 名， 日本糖尿病学会専門医 1 名，日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名， 日本感染症学会感染症専門医 1 名，日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名， 日本血液学会血液専門医 1 名，日本腎臓学会腎臓専門医 1 名										
外来・入院患者数	内科外来患者 39,357 名/年 内科入院患者 2008 名/年										
経験できる疾患群	1) 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，上記の内科症例を専門医の指導のもと経験できます。 2) 専門医のいない疾患に対しても指導医の指導のもと経験することが可能です。										
経験できる技術・技能	1) 内科疾患全般の診断，治療，超音波検査・内視鏡検査・治療・心臓カテーテル検査・治療など専門的な検査，治療など幅広い診療を経験できます。 2) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。										
経験できる地域医療・診療連携	なし										
学会認定施設 (内科系)	<table border="0"> <tr> <td>日本内科学会教育関連施設</td> <td>日本感染症学会認定研修施設</td> </tr> <tr> <td>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</td> <td>日本がん治療認定医機構認定研修施設</td> </tr> <tr> <td>日本リウマチ学会認定教育施設</td> <td>日本臨床腫瘍学会認定研修施設</td> </tr> <tr> <td>日本腎臓学会研修施設</td> <td>日本消化器病学会認定施設</td> </tr> <tr> <td>日本透析医学会認定施設</td> <td>日本糖尿病学会認定教育施設</td> </tr> </table>	日本内科学会教育関連施設	日本感染症学会認定研修施設	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設	日本がん治療認定医機構認定研修施設	日本リウマチ学会認定教育施設	日本臨床腫瘍学会認定研修施設	日本腎臓学会研修施設	日本消化器病学会認定施設	日本透析医学会認定施設	日本糖尿病学会認定教育施設
日本内科学会教育関連施設	日本感染症学会認定研修施設										
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設	日本がん治療認定医機構認定研修施設										
日本リウマチ学会認定教育施設	日本臨床腫瘍学会認定研修施設										
日本腎臓学会研修施設	日本消化器病学会認定施設										
日本透析医学会認定施設	日本糖尿病学会認定教育施設										

#### 14. 白十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が設置されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があります。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 12 名在籍しています。</li> <li>・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に開催（2022 年度 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスへ定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（2022 年度 6 回）を定期的に開催し、専攻医に受講の時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、救急、消化器、循環器、呼吸器、感染症、代謝、腎臓および神経の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・専門研修に必要な剖検（2022 年度 1 体）を行っています。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表（2021 年度 1 題、2022 年度 1 題）。</li> <li>・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2022 年度 3 回）しています。</li> <li>・治験審査委員会を設置し、治験事務局にて治験を管理しています。</li> <li>・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、国内学会には年 2 回の参加費用を補助し、発表者には別枠で経費の補助があります。</li> </ul>
指導責任者	<p>岩瀬 正典</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>福岡・糸島医療圏の西部に位置する当院ではコモンかつフレッシュな内科疾患を多数経験できます。1 例 1 例の症例を深く掘り下げることに加え、場数を多く踏むことにより将来の内科医としての自信をつけることができます。また、院内保育施設に加えて、育児のための時短就業体制もあります。当院は九大移転などで急速に発展する福岡市西区の唯一の地域医療支援病院であり、地域医療に貢献できる全人的医療を実践できる内科専門医の育成を目指します。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 9 名、日本脳卒中学会専門医 6 名、日本腎臓学会専門医 4 名、日本神経学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本消化器病学会専門医 3 名、日本消化器内視鏡学会専門医 3 名、日本循環器学会専門医 2 名、日本呼吸器学会専門医 1 名、日本老年学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 平均 298 名/日 入院患者 平均 242 名/日
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、当法人内の在宅診療部門と連携し在宅診療、臓器にとらわれず全身を診れる総合内科診療を経験できます。

## 15. 福岡病院

<p>認定基準【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・ 国立病院機構の非常勤医師等として勤務環境が整備されています。</li> <li>・ メンタルヘルスに適切に対処する部署（安全衛生委員会）があります。</li> <li>・ ハラスメントに関する相談等に対応するため、就業規則に基づきハラスメント相談窓口が設置されています。</li> <li>・ 国立病院機構の規定に基づき、コンプライアンス担当者が設置されています。</li> <li>・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導医が 13 名在籍しています。</li> <li>・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る予定です。</li> <li>・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（年 4 回）←2014 年度実績（医療倫理=0 回、医療安全=2 回、感染対策=2 回）</li> <li>・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ CPC を定期的で開催（2015 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ 地域参加型のカンファレンス（2014 年度実績福岡南呼吸器検討会 5 回、筑紫呼吸器検討会 4 回、南区合同症例検討会 3 回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>認定基準【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、呼吸器およびアレルギー、膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・ 専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 2 体）を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨床研究に必要な図書室、</li> <li>・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 1 演題）をしています。</li> <li>・ 倫理委員会を設置し、定期的で開催（2014 年度実績 11 回）しています。</li> <li>・ 治験管理室を設置し、定期的を受託研究審査会を開催（2014 年度実績 12 回）しています。</li> <li>・ 専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行う予定です。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>吉田 誠</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>国立病院機構福岡病院は、全国に 144 ある国立病院機構病院の一翼を担っています。その中であって、福岡病院は個性あふれる病院を目指しています。専門性の高さ、患者さんにやさしい病院スタッフの育成、職員同士の切磋琢磨する気風、臨床研究の風土などを特徴とする病院です。特に呼吸器・アレルギー、膠原病リウマチは多くの学会専門医を擁しています。</p> <p>呼吸器内科は急性期から慢性期までの、結核を除くほとんどの呼吸器疾患を対象としており、ことに喘息・COPD 診療、呼吸リハビリテーション、睡</p>

	<p>眠呼吸障害医療、禁煙外来などが出色です。アレルギー診療はアレルギー科、皮膚科、耳鼻咽喉科が連携して、喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、花粉症などを総合的に診療しています。また福岡県の花粉情報を担当しています。</p> <p>膠原病内科（リウマチ科）は、関節リウマチの新薬が続々登場して治療内容が激変しており、関節変形を起こさない治療を目指しています。平成24年4月から循環器内科を新設し、慢性心不全の診療や心臓リハビリテーションを開始しました。平成26年11月、新しく一般病棟の新築が完成し、診療、療養環境が一新いたしました。さらに診療の充実度を増していこうと職員一同頑張っております。</p> <p>このユニークで、内科症例数も多い当院での研修はきっと専攻医の先生方にとって大変魅力的で役にたつと考えております。</p>
指導医数（常勤医）	日本内科学会総合内科専門医5名、日本循環器学会循環器専門医1名、日本呼吸器学会呼吸器専門医13名、感染症学会指導医1名
外来・入院患者数	外来患者 6,026名（1ヶ月平均） 入院患者 8,680名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	<ol style="list-style-type: none"> <li>1). 研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群のうち、呼吸器、アレルギー、膠原病、感染症を経験でき呼吸不全緩和ケア治療、終末期医療等についても経験できます。</li> <li>2). 多数の通院・入院患者に発生した内科疾患についてきわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある呼吸器、アレルギー、膠原病、感染症の症例を幅広く経験することができます。</li> </ol>
経験できる技術・技能	<ol style="list-style-type: none"> <li>1). 日本屈指の呼吸器アレルギー疾患専門病院において、診断、治療（標準治療、臨床試験・治験）、緩和ケア治療、気管支内視鏡検査・治療など幅広い診療を経験できます。</li> <li>2). 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</li> </ol>
経験できる地域医療・診療連携	福岡南呼吸器検討会や筑紫呼吸器検討会など、疾患の検討会を開催し、地域の先生方との交流をはかることによって、密接な連携が可能となっています。
学会認定施設（内科系）	日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設、日本アレルギー学会認定教育施設（内科）、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本心身医学会研修診療施設、日本感染症学会研修施設、日本睡眠学会認定医療機関、日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設、臨床研修指定病院（呼吸器疾患・免疫アレルギー疾患）、臨床修練指定病院（呼吸器疾患・免疫アレルギー疾患）

#### 16. 国家公務員共済組合連合会千早病院

<p>認定基準</p> <p><b>【整備基準23】</b></p> <p>1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・非常勤医師として労務環境が保障されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、当直室が整備されています。</li> </ul>
認定基準	・指導医が6名在籍しています。

<p>【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を随時開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に開催（2022 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、膠原病および血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・専門研修に必要な剖検（2021 年実績 1 体、2022 年度実績 1 体）を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理委員会を設置し、随時開催しています。</li> <li>・治験管理室を設置し、随時受託研究審査会を開催しています。</li> <li>・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>副院長 原田 直樹</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>福岡市東区では九州大学病院を除いた唯一の公的病院であり、東区の医療機関・クリニックとの連携が強固で、信頼されています。消化器、循環器、代謝、膠原病、血液の分野の多数の通院・入院患者があり、幅広く研修を行うことができます。幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 4 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名 日本肝臓学会専門医 2 名、日本消化器病学会消化器専門医 3 名、 日本内視鏡学会専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、 日本心血管インターベンション学会指導医 1 名、 日本超音波医学会専門医・指導医 1 名、日本血液学会血液専門医 2 名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>内科循環器科外来患者 延べ 2472 名 (1 ヶ月平均) 内科循環器科入院患者 延べ 1360 名 (1 ヶ月平均)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>研修手帳 15 領域の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について幅広く経験することが可能です。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>1) 腹部超音波検査ならびに超音波下肝生検、肝癌治療 2) 消化管内視鏡検査ならびに内視鏡下治療 3) 心臓超音波検査、心嚢穿刺、胸腔穿刺、心臓カテーテル検査ならびに治療、ペースメーカー手術、中心静脈穿刺、CHDF 4) 腹部血管造影下治療 5) 骨髄穿刺、など実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>地域医療・診療連携を経験できます</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本血液学会認定血液研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会関連施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本循環器学会認定循環器研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設</p>

	日本乳癌学会認定医専門医制度研修施設 など
--	--------------------------

17. 門司掖済会病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・常勤医師として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスにはカウンセリング委員、および産業医が対応します。</li> <li>・女性医師スタッフも複数勤務しており、院内サークルでお茶、バトミントン、テニス、アンサンブルなどが活動しています。</li> <li>・更衣室、当直室が整備されています。</li> <li>・近隣に一般保育施設、病児保育施設があります。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 6 名在籍しています（下記）。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2022 年度実績 医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・剖検例では CPC を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（地元医師会合同勉強会、多地点合同メディカル・カンファレンスを含む）を積極的に開催または関与し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち少なくとも 10 分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 1 体）を行っています。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を推奨、支援しています（2021 年度実績 1 演題）。</li> <li>・倫理委員会を設置し、必要時に開催しています。</li> <li>・専攻医が国内の学会に参加・発表する機会があります。</li> </ul>
指導責任者	<p>藤井健一郎</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>内科教育関連病院だけでなく日本高血圧学会認定研修施設となっており、高血圧に関するすべてに対応できます。また腎センターを設置しており、腎・透析専門医 2 名、臨床工学技士、看護師で構成され、透析患者数は血液透析・腹膜透析を合計し 120 名前後です。腎移植を除く腎疾患のすべてに対応できます。また、糖尿病専門医との連携により透析予防にも努めています。</p> <p>胃腸内科では 3 名の専門医が内視鏡検査・治療を行い、外科とのスムーズな連携をしています。外科は消化管、乳腺、呼吸器疾患にも対応しており、診断から手術、ストマケア、化学療法、緩和療法まで一貫して診ています。</p> <p>歯科・口腔外科医は 2 名体制で、地域病院・診療所との連携にも重点を置いており、口腔外科を中心とした歯科治療、外傷や炎症などの救急にも対応しています。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 6 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本腎臓学会専門医 2 名、日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本高血圧学会専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 5,000 名 (1ヶ月平均) 入院患者 150 名 (1ヶ月平均)
病床	199 床 (急性期 144 床、地域包括ケア 55 床)
経験できる疾患群	研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群のうち、多数の通院・入院



	患者に発生した内科疾患について、幅広く経験することが可能です。高齢者が多く、多病を有する患者が多いので、総合的診療の実践が可能です。
経験できる技術・技能	1) 技術・技能研修手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を広く経験できます。 複数の疾患を併せ持つ高齢者が多いので、検査・治療の適応、安全確認などに注意しながら実施していただきます。 2) 終末期ケア，緩和ケア，認知症ケア，褥瘡ケア，廃用症候群のケア，嚥下障害を含めた栄養管理，リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能です。
経験できる地域医療・診療連携	急性期病床と地域包括ケア病床を有しており、急性期医療から在宅復帰へのスムーズな移行を支援しています。 在宅緩和ケア治療，終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本高血圧学会専門医認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器学会認定施設 日本外科学会外科専門医制度修練指定施設 日本消化器外科学会専門医制度関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本麻酔科学会麻酔科認定病院 歯科・口腔外科臨床研修施設

#### 18. 福岡東医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・国立病院機構非常勤医師として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課職員担当）があります。</li> <li>・ハラスメント委員会を院内に設置しています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医は 23 名在籍しています。</li> <li>・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（院長），プログラム管理者（臨床研究部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</li> <li>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に開催（2022 年度実績 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：部カンファレンス，救急プライマリカンファレンス，臨床腫瘍カンファレンス，かすや腎臓セミナー，粕屋・宗像呼吸器フォーラム，医師・薬剤師・看護師のための多職種連携漢方講演会，福岡東循環器懇談会，Stroke web、粕屋三師会地域連携医療後援会、感染対策連携施設合同カンファレ</li> </ul>

	<p>ンス (2022 年度実績 17 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。</li> <li>・特別連携施設の専門研修は、本プログラムにはありませんが、今後地域医療の現状から追加の必要性が認められた場合にはプログラム委員会で検討します。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野 (少なくとも 11 分野以上) で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています (上記)。</li> <li>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群 (少なくとも 35 以上の疾患群) について研修できます (上記)。</li> <li>・専門研修に必要な剖検 (2022 年度実績 8 体) を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に必要な図書室、臨床研究室などを整備しています。</li> <li>・臨床研修審査委員会を設置し、定期的開催 (2022 年度実績 11 回) しています。</li> <li>・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で学会発表をしています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>黒岩 三佳 【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>福岡東医療センターは、福岡県粕屋保健医療圏の中心的な急性期病院であり、福岡医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院 (初診・入院～退院・通院) まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 23 名、日本内科学会総合内科専門医 23 名 日本消化器病学会消化器専門 11 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 3 名、 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医 (内科) 2 名、 日本リウマチ学会専門医 1 名、日本感染症学会専門医 1 名、 日本救急医学会救急科専門医 2 名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>内科系外来患者 6,374 名 (1 ヶ月平均) 内科系入院患者 6,545 名 (1 ヶ月平均)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病院連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設</p>

	日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定医制度認定施設 日本消化管学会認定胃腸科指導施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本心血管インターベンション学会認定研修関連施設 日本血液学会認定専門研修教育施設 など
--	---

## 19. 済生会福岡総合病院

認定基準 <b>【整備基準 23】</b> 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・福岡県済生会福岡総合病院非常勤医師として勤務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が総務課に整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に病児保育所があり，利用可能です。</li> </ul>
認定基準 <b>【整備基準 23】</b> 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医は 25 名在籍しています（下記）。</li> <li>・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長），プログラム管理者（診療部長）（ともに内科指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</li> <li>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2019 年度実績 12 回以上）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的で開催（2019 年度実績 10 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（天神メディカルネットフォーラム，21 世紀循環器セミナー，天神消化器病カンファレンス，天神神経カンファレンス，福岡脳卒中カンファレンス福岡市内科医会研究会，福岡市中央区内科医会研究会，福岡市勤務医内科医会研究会，福岡消化器病研究会，福岡呼吸器病研究会ほか；2019 年度実績 30 回以上）を定期的で開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2019 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。</li> </ul>
認定基準 <b>【整備基準 23/31】</b> 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 12 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。</li> <li>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。</li> <li>・専門研修に必要な剖検（2017 年度実績 12 体，2018 年度 12 体）を行っています。</li> </ul>
認定基準 <b>【整備基準 23】</b> 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。</li> <li>・倫理委員会を設置し，定期的で開催（2019 年度実績 10 回）しています。</li> <li>・治験管理室を設置し，定期的に治験審査会（北部九州済生会共同治験委員会）を開催（2019 年度実績 12 回）しています。</li> </ul>

	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2017年度実績6演題）をしています。
指導責任者	落合利彰（副院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 済生会福岡総合病院は、福岡県福岡・糸島医療圏の中心的な急性期病院であり、近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、総合力を備えて地域医療にも貢献し、全人的な態度で診療ができる内科専門医の育成を目指します。当院は、内科系の診療科のみならず、すべての診療科の垣根が低く、チーム医療に基づいた専門研修体制に優れています。基本理念である「良質で安全な医療」「救急医療の充実」「高度専門医療の推進」「地域医療連携」を重視し、患者本位の医療サービスを提供しています。研修においては、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する質の高い内科専門医になります。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 25名、日本内科学会総合内科専門医 12名 日本消化器病学会消化器専門医 5名、日本循環器学会循環器専門医 6名、 日本糖尿病学会専門医 2名、日本腎臓病学会専門医 1名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2名、日本血液学会血液専門医 1名、 日本神経学会神経内科専門医 3名、日本アレルギー学会専門医（内科）1名、 日本リウマチ学会専門医 1名、日本感染症学会専門医 1名、 日本救急医学会救急科専門医 1名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 5721名（内科系1ヶ月平均） 入院患者 484名（内科系1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 など

20. JCHO 九州病院

<p>認定基準 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 厚生労働省臨床研修指定病院(管理型臨床研修病院)です.</li> <li>● 研修に必要な図書室とインターネット環境があります. UpToDate、今日の診療と治療、医学雑誌は電子書籍になっており、図書室以外でもダウンロードして読むことができます. ダウンロードができない文献については出版社に注文しますが、病院が全額補助をしています.</li> <li>● 医局内に個人専用の机・本棚などが整備されています.</li> <li>● JCHO九州病院非常勤医師として労務環境が保障されています.</li> <li>● メンタルストレスに適切に対処する部署(総務企画課職員+臨床心理士及び安全衛生委員会)があります.</li> <li>● ハラスメント委員会がJCHO九州病院内に整備されています.</li> <li>● 女性専攻医が安心して勤務できるように、女性医師専用の休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています.</li> <li>● 敷地内に院内保育所があり、利用可能です.</li> </ul>
<p>認定基準 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 指導医は33名、総合内科専門医は17名在籍しています.</li> <li>● 内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者は副院長、総合内科専門医かつ指導医)にて基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります.</li> <li>● 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育センターを設置しています.</li> <li>● 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.</li> <li>● 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.</li> <li>● CPCを定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.</li> <li>● 地域参加型のカンファレンス(北筑カンファレンス[循環器関係、年4回開催]、岸の浦カンファレンス[消化器関係、偶数月開催]、八幡成人病懇話会[年3回]、内科医会[月1回]、八幡内科医会学術研究会[月1回]、帆柱内科カンファレンス[月1回]、北部福岡感染症研究会[月1回]、北九州胃腸懇話会[月1回]、北部福岡臨床救急セミナー[月1回]、北九州糖尿病の集い[月1回])を定期的に開催し、専攻医が参加しやすいように時間的余裕を与えます.</li> <li>● プログラムに所属する専攻医にJMECC受講を開催します.</li> <li>● 日本専門医機構による施設実地調査に教育センターが対応します.</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.</li> <li>● 70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます.</li> <li>● 専門研修に必要な剖検(過去3年の平均は10体)を行っています.</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています.</li> <li>● 倫理委員会を設置し、定期的に開催(年間実績12回)しています.</li> <li>● 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(年間12回)しています.</li> <li>● 日本内科学会講演会あるいは同地方会での発表をサポートします.</li> <li>● 専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています.</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>原田 大志 (内科部長、統括診療部長)</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p>

	<p>JCHO九州病院 (独立行政法人地域医療機能推進機構、Japan Community Healthcare Organization [JCHO])は、その名の通り日本の地域医療機能を推進することを目標に設立された全国に57あるJCHO病院群の一つです。その中でもJCHO九州病院は福岡県北九州市・遠賀・中間医療圏の中心的な高次機能・専門病院であり、また急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患などの診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身に着けることができます。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジェズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できます。このようにして、JCHO九州病院での研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を通じて、将来の地域医療を担う総合内科医から内科専門分野を担う医師まで、幅広い方面で活躍できる内科専門医の養成を目指しています。担当医として、入院から退院(初診・入院~退院・通院)まで経時的に診療に関与し、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を育てることが目標です。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 18名、日本内科学会総合内科専門医 18名 日本消化器病学会消化器専門医 5名、日本循環器学会循環器専門医 5名、日本糖尿病学会専門医 1名、日本腎臓病学会専門医 1名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4名、日本血液学会血液専門医 4名、日本神経学会神経内科専門医 1名、日本アレルギー学会専門医(内科) 0名、日本リウマチ学会専門医 0名、日本感染症学会専門医 1名、日本救急医学会救急科専門医 2名、ほか
外来・入院患者数	2022年一日平均外来患者数 743.5人、一日平均入院患者数 418.0人
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある56領域、160疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	これからの超高齢化社会で人々は複数の疾患を抱え、医療・介護・福祉などが地域の中で完結する必要があります。その中で急性期/専門医療~回復期リハビリ~介護(在宅、福祉施設)の中心となって活躍している総合診療医もその中心は内科医です。JCHO九州病院は広く地域医療を担うバランスのとれた内科専門医を養成するためにこのプログラムを作成しました。即ち、JCHO九州病院では急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本老年医学会認定施設、日本消化器学会専門医制度関連施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本不整脈学会・日本心電図学会認定不整脈専門医研修施設、日本



	<p>超音波医学界認定専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 ICD/両室ペースメーカー植え込み認定施設、ステントグラフト実施施設(腹部大動脈瘤、胸部大動脈瘤)、心臓リハビリテーション研修施設、日本呼吸器学会指導医制度関連施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本臨床細胞学会認定施設、日本神経学会専門医制度准教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設連携教育施設、日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設、日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設など</p>
--	--

## 21. 北九州市立医療センター

<p>認定基準 1) 専攻医の環境</p>	<p>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。・※※市非常勤医師として労務環境が保障されています。・メンタルストレスに適切に対処する窓口(職員健康ホットライン、EAP(セーフティネット))があります。・ハラスメントに関する苦情の申し出および相談は①病院局総務課 ②病院事務局管理課庶務係③総務企画局人事課 ④総務企画局給与課安全衛生係 ⑤ 総務企画局女性活躍推進課 ⑥監察官にて受付を行っています。・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</p>
<p>認定基準 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<p>・指導医は13名在籍しています(下記)。・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(統括部長)(総合内科専門医かつ指導医)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催(2022年度実績5回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・CPCを随時開催(2022年度実績3回9症例)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・地域参加型のカンファレンス(北九州市立医療センター研修会;2022年度実績10回)を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・日本専門医機構による施設実地調査に内科臨床研修管理委員会)が対応します。</p>
<p>認定基準 【整備基準23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<p>・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野(少なくとも9分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記)。・70疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも35以上の疾患群)について研修できます(上記)。・専門研修に必要な剖検(2021年度実績10体、2022年度9体)を行っています。</p>
<p>認定基準 【整備基準23】 4) 学術活動の環境</p>	<p>・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。・倫理委員会を設置し、定期的開催(2022年度実績12回)しています。・臨床研究推進センターを設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2022年度実績12回)しています。・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表(2022年度実績6演題)をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>大野 裕樹</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>13人(感染症、膠原病、血液、肝臓、内分泌代謝、糖尿病、循環器、呼吸器、消化器)</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者数(22,453名1ヶ月平均延数) 入院患者数(10,357名1ヶ月平均延</p>

	数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	矢津内科消化器科クリニック
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本感染症学会認定研修施設 日本肝臓病学会認定施設 日本血液学会認定専門研修教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本老年医学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本消化器病学会指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本循環器学会認定専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定施設 など

## 22. 雪の聖母会 聖マリア病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院常勤医として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（労務管理部）があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に保育所があり，利用可能です。</li> </ul>
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内科指導医が 18 名在籍しています（下記）。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2021 年度実績 医療倫理 1 回，医療安全・感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンス（今後開催予定）を定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的で開催（2021 年度実績 11 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（内科系合同カンファレンス、地域医療支援講演会；2021 年度実績 内科系合同カンファレンス 9 回，地域医療支援講演会 12 回）を定期的で開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・専門研修に必要な剖検（2021 年度実績 6 体）を行っています。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2021 年度実績 2 演題）をしています。</li> <li>・倫理委員会を設置し，定期的で開催（2021 年度実績 1 回）しています。</li> <li>・治験に適切に対応する部署があります。</li> <li>・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。</li> </ul>
指導責任者	<p>田代 英樹</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院にて JMECC も開催致しますので、皆様からのご応募をお待ちしており</p>



	ます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 18 名, 日本内科学会総合内科専門医 19 名 日本消化器病学会消化器病専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名 日本血液学会血液専門医 5 名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 0 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 4 名 日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名 日本肝臓学会肝臓専門医 1 名 日本神経学会神経内科専門医 1 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名 日本感染症学会感染症専門医 2 名, ほか
外来・入院患者数	外来患者 697 名 (1 日平均) 入院患者 682 名 (1 日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科サブスペシ ャルティ)	日本内科学会認定医制度認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本神経学会専門医制度認定準教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本肝臓学会認定施設
学会認定施設 (その他)	日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 など

### 23. 小倉記念病院

認定基準	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
------	-----------------------

【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・専攻医として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口があります。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室が整備されています。</li> <li>・当院と隣接する施設内に当院専用の保育所があります。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 14 名在籍しています。</li> <li>・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に行い(2015 年実績 11 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス(地域研究会、地域学術講演会、腎病理カンファレンスなどを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、主に循環器の分野において、定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	金井英俊 【内科専攻医へのメッセージ】 専攻医の皆さんの可能性を引き出し、地域医療を支える総合内科医師や内科系 subspecialty 分野の専門医へと歩み続けることができるような研修体制を行います。
指導医数 (常勤医) 重複あり	日本内科学会指導医 14 名、総合内科専門医 8 名、日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名 ほか
外来・入院患者延数	外来患者延数 195,809 名 入院患者延数 216,233 名 (平成 27 年度)
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本内科学会認定医 教育病院</li> <li>日本救急医学会救急科専門医指定施設</li> <li>日本消化器病学会専門医制度認定施設</li> <li>日本循環器学会循環器専門医研修施設</li> <li>日本血液学会認定血液研修施設</li> <li>日本腎臓学会研修施設</li> <li>日本神経学会専門医制度教育施設</li> <li>日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院</li> <li>日本臨床腫瘍学会認定研修施設</li> <li>日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設</li> </ul>

	<p>日本がん治療医認定医機構認定研修施設          日本透析医学会専門医制度認定施設          日本心血管インターベンション治療学会研修施設          日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設          日本臨床細胞学会認定施設          日本病理学会研修認定施設 B          日本腹膜透析医学会教育研修施設          日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設          日本感染症学会研修施設          日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設          日本脈管学会認定研修施設          日本肝胆膵外科学会認定施設 B          など</p>
--	--

24. 松山赤十字病院

<p>認定基準  <b>【整備基準 24】</b>  <b>1)専攻医の環境</b></p>	<p>初期臨床研修制度基幹型研修指定病院。          研修に必要な図書室とインターネット環境がある。          松山赤十字病院常勤医師として労務環境が保障されている。          メンタルストレスに適切に対処する部署がある。          ハラスメント委員会が整備されている。          女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。          敷地内に院内保育所があり、利用可能。</p>
<p>認定基準  <b>【整備基準 24】</b>  <b>2)専門研修プログラムの環境</b></p>	<p>指導医は 30 名在籍している。          内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。          基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置し教育研修推進室と連携して研修の質を担保する。          以下のカンファレンス、講習会等を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。          ① 医療倫理・医療安全・感染対策等の講習会          ② 研修施設群合同カンファレンス          ③ CPC          ④ 地域参加型のカンファレンス          ⑤ JMECC          日本専門医機構による施設実地調査には教育研修推進室が対応する。          特別連携施設研修では、電話や面談、カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行う。</p>
<p>認定基準  <b>【整備基準 24】</b>  <b>3)診療経験の環境</b></p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野の少なくとも 12 分野で常時専門研修が可能な症例数を診療している。          70 疾患群のうち少なくとも 58 以上の疾患群について研修できる。          専門研修に必要な剖検数を確保している</p>
<p>認定基準  <b>【整備基準 24】</b>  <b>4)学術活動の環境</b></p>	<p>臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備している。          医療倫理委員会を設置し、定期的に行っている。          治験管理センターを設置し、定期的に行っている。          日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の発表をしてい</p>

	る。
指導責任者	藤崎智明 【内科専攻医へのメッセージ】 松山赤十字病院は、松山医療圏の中心的地域医療支援病院であり、当プログラムでの内科専門研修で、将来にわたり愛媛の地域医療を支える内科専門医育成を目指します。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 30 名，日本内科学会認定内科医指導医 5 名， 日本消化器病学会消化器専門医 9 名，日本循環器学会循環器専門医 6 名， 日本糖尿病学会専門医 3 名，日本腎臓病学会専門医 5 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名，日本血液学会血液専門医 6 名， 日本神経学会神経内科専門医 1 名，日本リウマチ学会専門医 3 名， 日本感染症学会専門医 3 名，日本老年医学会専門医 2 名 日本肝臓学会専門医 6 名 日本高血圧学会専門医 1 名，日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名 日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医・指導医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名，日本消化器内視鏡学会専門医 8 名 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医 1 名，日本認知症学会認定認知症専門医 1 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 13,027 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 229 名 (1 日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて， <u>研修手帳 (疾患群項目表)</u> にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	<u>技術・技能評価手帳</u> にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 など

25. 総合病院 山口赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型臨床研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・常勤医師としての待遇が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理士常勤）があります。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内科指導医が 7 名在籍しており、その他指導医もいます。（下記）</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2022 年度実績 医療倫理 1 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的開催（2022 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，神経，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 2 体）を行っています。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。</li> <li>・倫理委員会を設置し、不定期に開催しています。</li> <li>・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があります。</li> </ul>
指導責任者	<p>末兼浩史</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>内科スタッフはチームワーク良く初期診療から専門領域まで皆協力分担して診療しており、少数精鋭で密度の濃い研修が可能です。分野間の垣根が低く、<b>common disease</b> から希少な難病・特定疾患まで豊富な症例の治療が専門医の指導下で経験可能で、的確な判断が要求される救急の場では一人で悩むことなくマンツーマンで上級医に相談し迅速な対応が可能です。総合病院として、すべての専門医師・医療スタッフの力を結集して、一人ひとりの患者さんの命に向き合い、他職種の医療スタッフにも恵まれ、職種を超えた NST, ICT などのチーム医療も盛んです。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 7 名，日本内科学会総合内科専門医 13 名          日本消化器病学会消化器専門医 3 名，日本循環器学会循環器専門医 2 名，          日本糖尿病学会専門医 1 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名，          日本神経学会指導医 2 名，日本神経学会専門医 2 名， ほか</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 693.7 名（1 日平均） 入院患者 291.8 名（1 日平均）</p>
経験できる疾患群	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち、領域においては、すべて幅広く経験することができます。</li> <li>2) 疾患群については、一部を除き多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く経験することが可能です。</li> </ol>
経験できる技術・技能	<p>1) 内科の受け持ちは臓器別ではなく内科全般の疾患を担当しますが、各診療科の専門医がいるため、適宜相談しながら主治医として診療可能です。そのため、技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・</p>



	<p>技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p> <p>2) 高齢化のすすむ圏域をカバーしていることから、患者の約6割は高齢者であるので、患者の急変に対応する機会は往々に発生します。そうした事例については終末期ケアも含めた経験を積むことができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	訪問看護ステーションを有し、小児から末期がん患者の訪問緩和ケアまで、広範な地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育関連病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本リウマチ学会教育施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本透析医学会認定施設</p> <p>日本神経学会専門医制度准教育施設</p> <p>日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設</p> <p>日本認知症学会専門医制度教育施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>など</p>

## 26. 浜の町病院

<p>認定基準</p> <p><b>【整備基準 23】</b></p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・浜の町病院非常勤医師として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が浜の町病院に整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準</p> <p><b>【整備基準 23】</b></p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医は18名在籍しています（下記）。</li> <li>・臨床研修センター（教育部内に設置、担当：統括責任者・診療部長、プログラム管理者・教育部長）が内科専門研修プログラムの管理を行い、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</li> <li>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を臨床研修センターが統括管理します。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2022年度実績6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPCを定期的で開催（2022年度実績3回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（福岡地域救急医療合同カンファレンス、福岡市内科医会、福岡市中央区内科医会、福岡市中央区消化器病症例検討会など）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2022年度実績1回：受講者3名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・日本専門医機構による施設実地調査に教育部が対応します。</li> <li>・本プログラムにおいて特別連携施設はありませんが、今後地域医療の現状などを鑑み、当医療圏において特別連携施設との連携の必要性が発生した場合には臨床研修センターで協議の上検討します。</li> </ul>
認定基準	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）

<p>【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<p>で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）． ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）． ・専門研修に必要な剖検（2020 年度実績 6 件，2021 年度 3 件，2022 年度 6 件）を行っています．</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<p>・臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています． ・倫理委員会を設置し，定期的開催（2022 年度実績 5 回）しています． ・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2022 年度実績 9 回）しています． ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表（2022 年度実績 8 演題）をしています．</p>
<p>指導責任者</p>	<p>衛藤徹也 【内科専攻医へのメッセージ】 浜の町病院は，福岡県福岡・糸島医療圏の中心的な急性期病院であり，福岡・糸島医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します． 主担当医として，入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります． 内科ほぼすべての分野において，専門学会の指導医あるいは専門医の資格を持つ部長が指導に当たり，幅広い研修が可能です．シミュレーションラボセンターを併設しているため，高度なシミュレーターを使用して技術指導を受けることが可能です．急患や総合診療症例も多く，急性疾患から慢性疾患まで幅広く研修することが可能です．</p>
<p>指導医数 （常勤医）</p>	<p>日本内科学会指導医 18 名，日本内科学会総合内科専門医 26 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名，日本肝臓学会専門医 4 名 日本循環器学会循環器専門医 6 名，日本感染症学会専門医 1 名， 日本糖尿病学会専門医 1 名，日本腎臓病学会専門医 2 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名，日本血液学会血液専門医 8 名， 日本神経学会神経内科専門医 2 名，日本リウマチ学会専門医 3 名， 日本救急医学会救急科専門医 1 名，ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 6,386 名（1 ヶ月平均） 入院患者 490 名（1 ヶ月平均）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．</p>
<p>学会認定施設 （内科系）</p>	<p>日本内科学会内科専門研修基幹病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会専門医制度専門医研修施設認定 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設認定 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度教育関連施設認定 日本脳卒中学会研修教育病院認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設</p>

	日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定医制度指導施設認定 日本病院総合診療医学会認定施設 など
--	--

## 27. 福岡赤十字病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室（専任の担当者有り）とインターネット環境（情報システム課が管理）があります。</li> <li>・日本赤十字社 福岡赤十字病院の常勤医師として勤務環境は適切に管理されています。</li> <li>・メンタルストレスに関しては福岡赤十字病院職員メンタルヘルスケア相談実施要綱が制定され、適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。さらに当院産業医また外部専門医（臨床心理士）によるカウンセリングが定期的にもまたは希望に応じてかつ秘密を保持しながら、適宜実施されています。</li> <li>・日本赤十字社ハラスメント防止規程に則り、また院内にハラスメント防止委員会が設置されています。各部署にハラスメント相談員を置くとともにハラスメント相談箱やメールによる相談も受け付け、プライバシーを厳守し、不利益な取り扱いを受けることのないよう十分配慮して対応しています。</li> <li>・専攻医を含めた女性医師が安心して勤務できるよう休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育園を設置しており、職員であれば利用することができます。週に1日の夜間保育も実施しています。</li> </ul>
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医は19名在籍しています（下記）。</li> <li>・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療部長）；専門医研修プログラム準備委員会から2016年度中に移行予定）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</li> <li>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群との合同カンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPCを適宜開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（サザンハートカンファレンス、サザンキドニーカンファレンス、サザンブレインカンファレンス、サザン General Medicine (SGM) 研究会、南区糖尿病を考える会、筑紫糖尿病研究会、福岡南・筑紫地区消化器カンファレンス。胃守会、南区合同症例検討会、病診連携セミナー、膠原病疾患を考える会、Team Myeloma Conference 等；2014年度実績24回）を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2015年度開催実績2回：受講者11名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（2016年度予定）が</li> </ul>



	<p>対応します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別連携施設である今津ならびに嘉麻赤十字病院での研修は、福岡赤十字病院のプログラム管理委員会と研修委員会とが管理と指導を行います。福岡赤十字病院の担当指導医が、今津ならびに嘉麻赤十字病院での上級医とともに、専攻医の研修指導にあたり、指導の質を保ちます。さらに特別連携施設での研修中も福岡赤十字病院の専用携帯電話を携帯し、同院の指導医を含めた全医師に直接電話あるいはメールで（この場合画像の送信も可能）相談出来る体制があります。また、最も遠方の病院でも距離的には車を利用して120分程度の移動距離であり（JR等の公共交通機関を利用しても移動可能）、専攻医が当院に定期的（月に数回）戻り、指導医と直接面談し、指導を受けることも予定しています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。（上記）</li> <li>・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます。（上記）</li> <li>・専門研修に必要な剖検（2014年度実績15体、2013年度13体）を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に必要な図書室、インターネット環境、写真室などを整備しています。</li> <li>・倫理委員会を設置し、適宜（定期的に）開催（2014年度実績8回）しています。</li> <li>・治験管理センターを設置し、定期的に治験審査委員会（受託研究審査会）を開催（2014年度実績11回）しています。</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2014年度実績5演題）をしています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>青柳 邦彦</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>福岡赤十字病院は福岡・糸島医療圏南部の中心的な急性期病院であります。福岡・糸島医療圏の南部を中心に、山口・佐賀・大分にある連携施設・特別連携施設とも協力して内科専門研修を行い、超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある地域の実情に合わせた実践的な医療も行える内科専門医の育成を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p> <p>具体的には福岡赤十字病院は、36診療科（外科の細分化専門科を含む）、511床を有し、ヘリポートも併設した福岡県福岡市南部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモディティーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、災害時における国内外への医療チームの派遣などの災害救護、国際医療救援活動にも携わり、社会貢献にも力を入れています。さらに、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養も見につけられます。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医14名、日本内科学会総合内科専門医8名、日本消化器病学会消化器専門医4名、日本循環器学会循環器専門医6名、日本糖尿病学会専門医3名、日本腎臓病学会専門医5名、日本呼吸器学会呼吸器専門医3名、日本血液学会血液専門医1名、日本神経学会神経内科専門医0名、日本アレルギー</p>

	一学会専門医（内科）0名、日本リウマチ学会専門医1名、日本感染症学会専門医2名、日本救急医学会救急科専門医2名、ほか日本内科学会指導医14名、日本内科学会総合内科専門医8名、日本消化器病学会消化器専門医4名、日本循環器学会循環器専門医6名、日本糖尿病学会専門医3名、日本腎臓病学会専門医5名、日本呼吸器学会呼吸器専門医3名、日本血液学会血液専門医1名、日本神経学会神経内科専門医0名、日本アレルギー学会専門医（内科）0名、日本リウマチ学会専門医1名、日本感染症学会専門医2名、日本救急医学会救急科専門医2名、ほか
外来・入院患者数	病院全体：外来患者19,591名（1ヶ月平均）入院患者1,071名（1ヶ月平均） うち内科：外来患者9,006名（1ヶ月平均）入院患者478名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定内科認定医制度教育病院 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会専門医制度研修施設 日本透析医学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器病内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本脳神経血管内治療学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 など

## 28. 飯塚病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境（有線LAN, Wi-Fi）があります。</li> <li>・飯塚病院専攻医として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として医務室があります。医務室には産業医および保健師が常駐しています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー一室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に24時間対応院内託児所、隣接する施設に病児保育室があり、利用可能です。</li> </ul>
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医は15名在籍しています（下記）。</li> <li>・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</li> <li>・基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会を設置</li> </ul>

	<p>します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2018年実績 医療倫理 4回、医療安全 24回、感染対策 12回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017年度開催予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPCを定期的に開催（2014年実績 5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（地域研究会、地域学術講演会、地域カンファレンスなど、2017年実績 73回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。なお、研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。</li> <li>・日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 45以上の疾患群）について研修できます。</li> <li>・専門研修に必要な剖検を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。</li> <li>・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。</li> <li>・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>増本 陽秀</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ピッツバーグ大学の教育専門医と、6年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た、教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。</p> <p>専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です。将来のキャリアパスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 18名、日本内科学会総合内科専門医 40名 日本消化器病学会消化器専門医 13名、日本循環器学会循環器専門医 11名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 11名、日本血液学会血液専門医 3名 日本神経学会神経内科専門医 3名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 1名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 5名、日本感染症学会専門医 1名ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 8,805名 (1ヶ月平均) 入院患者 1,504名 (1ヶ月平均)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会 教育病院 日本救急医学会 救急科指定施設 日本消化器病学会 認定施設 日本循環器学会 研修施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本血液学会 研修施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本腎臓学会 研修施設 日本肝臓学会 認定施設 日本神経学会 教育施設 日本リウマチ学会 教育施設 日本臨床腫瘍学会 研修施設 日本消化器内視鏡学会 指導施設 日本消化管学会 胃腸科指導施設 日本呼吸器内視鏡学会 認定施設 日本呼吸療法医学会 研修施設 飯塚・穎田家庭医療プログラム 日本緩和医療学会 認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 A 日本胆道学会指導施設 日本がん治療医認定医機構 認定研修施設 日本透析医学会 認定施設 日本高血圧学会 認定施設 日本脳卒中学会 研修教育病院 日本臨床細胞学会 教育研修施設 日本東洋医学会 研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼動施設 日本栄養療法推進協議会 NST 稼動施設 など

## 29. 九州労災病院

認定基準 <b>【整備基準 24】</b> 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>•研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>•当院非常勤医師として労働環境が保障されています。</li> <li>•院内に勤労者メンタルヘルスセンターがあり，年1回のストレスチェック，及び希望者には随時産業医による面談を行なっています。</li> <li>•セクハラ・パワハラ委員会が整備されています。</li> <li>•女性専攻医が安心して勤務できる様に，更衣室，当直室が整備されています。</li> <li>•近隣に保育所があり，利用可能です。</li> </ul>
認定基準 <b>【整備基準 24】</b> 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>•倫理，医療安全，感染対策の講演会を毎年それぞれ1回，2回，2回開催し，全職員の聴講（DVD，eラーニング含む）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>•内科カンファレンス，がんボードを隔週で開催し，出席を義務付け，そのための時間的余裕を与えています。</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>•病理医 3名常勤しており、専門研修に必要な剖検を行ない(2023年度1件)、CPCを定期的に開催し、参加のための時間的余裕を与えています。</li> <li>•地域参加型のカンファレンス2回を定期的に開催し、参加のための時間的余裕を与えています。</li> </ul>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24/31】</p> <p>3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、血液、神経、膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> </ul>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年数演題、学会発表しています。(2021年度2件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•倫理委員会を設置し、定期的に開催(年12回)しています。</li> <li>•治験管理室を設置し、治験審査委員会を定期的に開催(年12回)しています。</li> <li>•専攻医が国内外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も行われています。</li> </ul>
指導責任者	<p>田中誠一</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は昭和24年に設立された全国で最初の労災病院です。北九州医療圏と京築医療圏の境界に位置しており、両医療圏と緊密な連携を取りながら、豊富な症例を紹介して頂いています。また、災害拠点病院として急性期医療にも力を入れており、脳卒中や循環器の急性期にも対応しています。さらに地域がん診療連携拠点病院にも指定されており、幅広いがん診療を経験できます。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会 総合内科専門医 8名、</p> <p>日本消化器病学会 消化器専門医 4名、指導医 1名</p> <p>日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医 3名、指導医 1名</p> <p>日本肝臓学会 肝臓専門医 1名、指導医 1名</p> <p>日本膵臓学会 指導医 1名</p> <p>日本循環器学会 循環器専門医 1名</p> <p>日本糖尿病学会 糖尿病専門医 3名、指導医 2名</p> <p>日本内分泌学会 内分泌専門医 1名</p> <p>日本血液学会 血液専門医 1名、指導医 1名</p> <p>日本リウマチ学会 リウマチ専門医 1名</p> <p>日本脳神経内科血管内治療学会 専門医 2名</p> <p>日本神経学会 専門医 2名 指導医 1名</p> <p>日本老年医学会 老年病専門医 1名、指導医 1名</p> <p>日本脳卒中学会 脳卒中専門医 1名、指導医 1名</p>
外来・入院患者数	<p>内科外来患者 214.9 名(総外来患者数 785.5 人) (1日平均)</p> <p>内科入院患者 122.0 名(総入院患者数 352.4 人) (1日平均)</p>
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、内科13領域、70疾患群の症例を経験することが

	できます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療安全だけでなく、超高齢社会に対応した、地域に根ざした医療、病診・病院連携などを経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本脳卒中学会専門医認定施設 日本脳卒中学会一次脳卒中センター 日本老年医学会認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器学会関連施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医関連認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本救急医学会救急科専門医施設 日本病理学会監修登録施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本乳癌学会専門医制度関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

### 3). 特別連携施設

日本赤十字社 今津赤十字病院

## 20. 九州中央病院内科専門研修プログラム管理委員会

(令和5年4月現在)

### 九州中央病院

竹迫 仁則 (プログラム統括責任者, 委員長, 神経内科分野責任者)

五島 大祐 (プログラム管理者, 内分泌・代謝分野責任者)

(事務局代表, 臨床研修センター事務担当)

古藤 洋 (呼吸器・アレルギー分野責任者)

東 晃一 (肝臓分野責任者)

小田代敬太 (循環器分野責任者)

満生 浩司 (腎臓分野責任者)

### 連携施設担当委員

九州大学病院 南 満理子

別府医療センター 末永 康夫

九州がんセンター 杉本 理恵

製鉄記念八幡病院 古賀 徳之

福岡山王病院 徳松 誠

原三信病院 高木 陽一

福岡市民病院 小柳 年正

宗像医師会病院 伊藤 裕幸

宗像水光会総合病院 古野 貴

済生会飯塚嘉穂病院 猪野 祥史

唐津赤十字病院 下田 慎治

下関市立市民病院 金子 武生

福岡和白病院 田口 文博

西福岡病院 原田 泰子

白十字病院 岩瀬 正典

福岡病院 吉田 誠

千早病院 道免 和文

門司掖済会病院 藤井 健一郎

今津赤十字病院 尾前 豪

浜の町病院 衛藤 徹也

福岡赤十字病院 青柳 邦彦

飯塚病院 井村 洋

九州労災病院 三浦 裕正

## 21. 年次毎の到達目標と研修カリキュラム

別表 1. 各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時	専攻医3年修了時	専攻医2年修了時	専攻医1年修了時	※5 病歴要約提出数
		カリキュラムに示す疾患群	修了要件	経験目標	経験目標	
分野	総合内科Ⅰ(一般)	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ(高齢者)	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ(腫瘍)	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例					2	
剖検症例					1	
合計※5	70疾患群	56疾患群 (任意選択含む)	45疾患群 (任意選択含む)	20疾患群	29症例 (外来は最大7)※3	
症例数※5	200以上 (外来は最大20)	160以上 (外来は最大16)	120以上	60以上		

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」，「肝臓」，「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが，他に異なる 15 疾患群の経験を加えて，合計 56 疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例) 「内分泌」2 例+「代謝」1 例，「内分泌」1 例+「代謝」2 例

※5 初期臨床研修時の症例は，例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り，その登録が認められる。



別表 2. 九州中央病院内科専門研修 週間スケジュール

＜内科研修プログラムの週間スケジュール: 消化器内科の例＞						
	月	火	水	木	金	土・日
8:00～			臨床カンファ			日当直2回/月
8:30～	一般内科振分け入院、指導医回診					
9:00～	透視	外来	上部内視鏡	上部内視鏡	上部内視鏡	
13:00～	病棟	病棟	下部内視鏡	下部内視鏡	下部内視鏡	
15:00～			病棟	病棟	病棟	
16:00～			消化器回診	医局会		
17:00～	内科カンファ	フィルムチェック	(月1回総回診)	外科カンファ	救急検討会	
19:00～	救急カンファ	胃腸カンファ			CPC(年5回)	
		九大所見会			九大抄読会	
	内科系共通	外科病理合同	4日毎消化器内科オンコール当番			

- ★ 九州中央病院内科専門研修プログラム 4. 専門知識・専門技能の習得計画 に従い、内科専門研修を実践します。
- ・ 上記はあくまでも例：概略です。
  - ・ 内科および各診療科（Subspecialty）のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。
  - ・ 入院患者診療には、内科と各診療科（Subspecialty）などの入院患者の診療を含みます。
  - ・ 日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科（Subspecialty）の当番として担当します。
  - ・ 地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。

別表 3. 九州中央病院内科専門研修年次毎の研修カリキュラム

<内科基本コース>

専攻医	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	糖尿・内分泌		脳血管		循環器		救急		腎臓			呼吸器
2年目	医療管理セミナー感染セミナー年2回の受講、CPC受講、2回/月のプライマリケア当直 連携施設および九大病院で血液、膠原病、肝臓、消化器研修を行なう											
3年目	JMECCを受講 療養病床併設連携施設で地域医療および外未診療研修 内科専門医取得の病歴準備 2回/月のプライマリケア当直											

<Subspecialty重点コース>

例) 消化器内科をSubspecialtyにした場合の重点コース

専攻医	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	糖尿・内分泌		脳血管		循環器		救急		腎臓			呼吸器
2年目	医療管理セミナー感染セミナー年2回の受講、CPC受講、2回/月のプライマリケア当直 連携施設および九大病院で血液、膠原病、肝臓、充足してない領域の研修を行なう											
3年目	JMECCを受講 内科専門医取得の病歴準備 肝・消化器 1回/週の消化器内科外来研修、消化器内科オンコール研修、2回/月のプライマリケア当直											

<Subspecialty重点強化コース>

例) 消化器内科をSubspecialtyにした場合の重点コース

専攻医	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	糖尿・内分泌		脳血管		循環器		救急		腎臓			呼吸器
2年目	医療管理セミナー感染セミナー、CPC受講、2回/月のプライマリケア当直 肝・消化器 消化器内科オンコール研修、2回/月のプライマリケア当直、JMECC受講、内科専門医取得準備											
3年目	肝・消化器 消化器内科外来・オンコール研修、2回/月のプライマリケア当直、消化器内科専門医取得準備 消化器、循環器、呼吸器、脳血管、腎臓、肝臓、糖尿病・内分泌の重点および重点強化コースは 2年目または3年目を当院の後期研修プログラムで研修する。											

## 九州中央病院内科専門研修専攻医研修マニュアル

### 1. 研修後の医師像と終了後に想定される勤務形態や勤務先

1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）：地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します。地域の医院に勤務（開業）し、実地医家として地域医療に貢献します。

2) 内科系救急医療の専門医：病院の救急医療を担当する診療科に所属し、内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な、地域での内科系救急医療を実践します。

3) 病院での総合内科（Generality）の専門医：病院の総合内科に所属し、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、総合的医療を実践します。

4) 総合内科的視点を持った subspecialist：病院で内科系の Subspecialty，例えば消化器内科や循環器内科に所属し、総合内科（Generalist）の視点から、内科系 subspecialist として診療を実践します。

九州中央病院内科専門研修施設群での研修で、内科医としてのプロフェッショナルリズムの涵養と General なマインドを持つ人材を育成し、福岡・糸島医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を涵養します。希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。九州中央病院内科専門研修プログラム終了後には、九州中央病院内科施設群専門研修施設群（下記）だけでなく、専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務する、または希望する大学院などで研究者として働くことも可能です。

### 2. 専門研修の期間

基幹施設である九州中央病院内科で、専門研修（専攻医）3年間に1～2年間の専門研修を行います。連携施設での研修も同様に専門研修（専攻医）3年間に1～2年間の専門研修を行います。

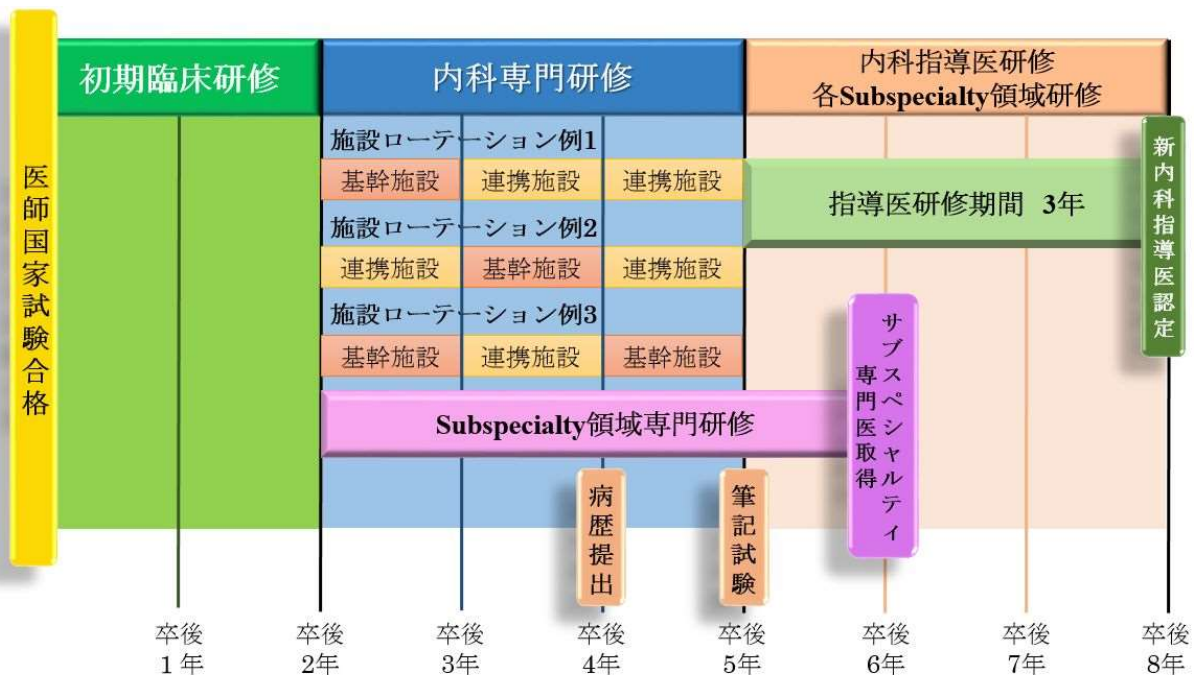


図1:九州中央病院内科専門研修プログラム(概念図)

3. 研修施設群の各施設名（九州中央病院内科専門研修プログラム、19. 九州中央病院内科専門研修施設群 P17-42 参照）

基幹施設：九州中央病院

連携施設：九州大学病院，別府医療センター，九州がんセンター，製鉄記念八幡病院，福岡山王病院，原三信病院，福岡市民病院，宗像医師会病院，済生会飯塚嘉穂病院，西福岡病院，白十字病院，福岡病院，千早病院，門司掖済会病院、飯塚病院、九州労災病院

4. プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名

九州中央病院内科専門研修プログラム管理委員会と委員名（P. 43「九州中央病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

指導医師名： 竹迫 仁則（神経内科分野責任者）  
五島 大祐（内分泌・代謝分野責任者）  
古藤 洋（呼吸器・アレルギー分野責任者）  
東 晃一（肝臓分野責任者）  
小田代 敬太（循環器分野責任者）  
満生 浩司（腎臓分野責任者）

5. 各施設での研修内容と期間（研修プログラム P. 45, 46 別表 2, 3）

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の2つのコース，①内科基本コース，②各科重点コースを準備しています。専攻医は各内科学部門ではなくプログラム管理委員会にて研修を管理し，1年目は基幹病院である九州中央病院、2年目以降は連携病院および九州大学病院で，研修に必要な疾患群の経験とプログラムで定める講習会と JMECC を受講します。

Subspecialty が未決定，または総合内科専門医を目指す場合は内科基本コースを選択し，3年目は九州中央病院総合内科および関連診療科，または療養病床併設連携施設で外来診療を含めた地域医療を深く研修します。将来の Subspecialty が決定している専攻医は各科重点または重点強化コースを選択し，2～3年目は志望する専門内科および関連領域を重点的にローテーションします。

#### A. 内科基本コース

高度な総合内科（Generality）の専門医を目指す場合や老年病内科専門医，将来の Subspecialty が未定な場合を選択します。内科専攻医1年目研修では九州中央病院で6科の専門内科をローテーションし，2年目研修では九州大学病院および連携施設のプログラムにより他の領域専門内科で研修することにより，2年間でほぼ全ての疾患群が研修できる体制になっています。3年目研修では九州中央病院総合内科および関連診療科，または療養病床併設連携施設で外来診療を含めた地域医療の経験を深めます。連携施設での研修期間は最低6ヶ月とし研修内容は各連携施設でのプログラムに従います。研修する連携施設の選定は専攻医と面談のうえプログラム統括責任者が決定します。

#### B. 各科重点コース

希望する Subspecialty 領域を重点的に研修するコースです。九州中央病院は糖尿病学会認定教育施設，循環器病学会専門医研修施設，消化器病学会専門医認定施設，消化器内視鏡学会認定指導施設，カプセル内視鏡学会認定指導施設，福岡県肝疾患専門医療機関，呼吸器学会認定施設，脳卒中学会認定研修教育施設，高血圧学会専門医認定施設，透析医学会教育関連施設として各領域専門医の育成に努めています。

内科基本コースと同様に、1年目研修は九州中央病院で、2年目研修では九州大学病院および連携施設のプログラムにより、ほぼ全ての疾患群が研修できる体制になっています。これにより3年目は希望する Subspecialty 専門施設で専攻する Subspecialty 内科領域を重点的に研修できます。更に1年目研修で内科専攻医研修の症例準備が可能であれば2年目研修より各 Subspecialty 領域専門研修を開始できる Subspecialty 重点強化コースの選択もできます。2年目または3年目研修では志望する専門領域の連携施設または当院において希望する Subspecialty 領域を重点的に研修します。将来の志望が明確であれば、2年目までの研修は他科の領域を選択することにより、更に効率的に目指す領域での知識、技術を習得することが出来ます。

なお、研修中の専攻医数や進捗状況により、2～3年目研修を連携施設で重点研修を行うことがありますが、あくまでも内科専門医研修が主体であり、研修する連携施設の選定は専攻医と面談のうえ協議して決定します。また専門医資格の取得と臨床系大学院への進学を希望する場合は、本コースを選択のうえ担当教授と協議して大学院入学時期を決定します。

#### 6. 本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

内科専門医研修カリキュラムに掲載されている主要な疾患については、DPC 病名を基本とした各内科診療科における疾患群別の入院患者数（2020年度）を調査し、1年目は基幹病院である九州中央病院と2年目以降は連携病院と九州大学附属病院の2年間で、ほぼ全ての疾患群が充足されることが解っています。さらに3年目は、①内科基本コース、②各科重点コースの各々に特化したカリキュラムを設けると共に、不足した疾患群の補充と外来診療の研修を計画しています。

表. 九州中央病院診療科別診療実績

2022年度実績	入院患者実数 (延べ人数/年)	外来延患者数 (延人数/年)
消化器内科	7,805	67,423
循環器内科	9,565	
糖尿病・内分泌内科	6,204	
腎臓内科	6,505	
呼吸器内科	17,580	
神経内科	6,333	
膵臓内科	7,271	

- \* 13領域のうち10領域の専門医が少なくとも1名以上在籍しています。
- \* 血液・リウマチ領域の入院患者は少なめですが、外来患者診療を含め、1学年6名に対し十分な症例を経験可能です。
- \* 剖検体数は12体。

#### 7. 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

Subspecialty 領域に拘泥せず、内科として入院患者を順次主担当医として担当します。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。専攻医1人あたりの受持ち患者数は、受持ち患者の重症度などを加味して、担当指導医、Subspecialty 上級医の判断で5～10名程度を受持ちます。感染症、総合内科分野は、適宜、領域横断的に受持ちます。



## 8. 自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行います。必要に応じて臨時に行うことがあります。評価終了後，1 か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け，その後の改善を期して最善をつくします。2 回目以降は，以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて，担当指導医からのフィードバックを受け，さらに改善するように最善をつくします。

## 9. プログラム修了の基準

日本内科学会専攻医登録評価システム J-OSLER を用います。同システムでは以下を web ベースで日時を含めて記録します。具体的な入力手順については内科学会 HP から”専攻研修のための手引き”をダウンロードし，参照してください。

- 1) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム J-OSLER に登録済みです。（P.53 別表 1「九州中央病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。
- 2) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理されています。
- 3) 学会発表あるいは論文発表を筆頭者で 2 件以上あります。
- 4) JMECC 受講歴が 1 回あります。
- 5) 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に 2 回以上受講歴があります。
- 6) 日本内科学会専攻医登録評価システム J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性があると認められます。

当該専攻医が上記修了要件を充足していることを九州中央病院内科専門医研修プログラム管理委員会は確認し，研修期間修了約 1 か月前に九州中央病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

〈注意〉「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 1～2 年間＋連携施設 1～2 年間）とするが，修得が不十分な場合，修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長することがあります。

## 10. 専門医申請にむけての手順

- 1) 必要な書類：①日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書，②履歴書，③九州中央病院内科専門医研修プログラム修了証（コピー）
- 2) 提出方法：内科専門医資格を申請する年度の 5 月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します。
- 3) 内科専門医試験：内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで，日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります。

## 11. プログラムにおける待遇

専攻医の勤務時間，休暇，当直，給与等の勤務条件に関しては，労働基準法を順守し，九州中央

病院の専攻医就業規則及び給与規則に従います。専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けます。プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告され、これらの事項について総括的に評価します。

## 12. プログラムの特色

- ① 本プログラムは、福岡県福岡・糸島医療圏の中心的な急性期病院である九州中央病院を基幹施設として、近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設 1～2 年間＋連携施設 1～2 年間の合計 3 年間です。
- ② 九州中央病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- ③ 基幹施設である九州中央病院は、福岡県福岡・糸島医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
- ④ 基幹施設である九州中央病院および連携施設での合計 2 年間（専攻医 2 年修了時）の研修で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム J-OSLER に登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます。
- ⑤ 九州中央病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修 1～3 年目のうちの 1～2 年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- ⑥ 基幹施設である九州中央病院および専門研修施設群での合計 3 年間（専攻医 3 年修了時）の研修で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の主担当医としての診療経験を目標とします。少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を主担当医として経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム J-OSLER に登録します。

## 13. 継続した Subspecialty 領域の研修の可否

カリキュラムの知識、技術・技能を深めるために、総合内科外来（初診を含む）、Subspecialty 診療科外来（初診を含む）、Subspecialty 診療科検査を担当します。結果として、Subspecialty 領域の研修につながることはあります。基本領域の到達基準を満たすことができる場合には、専攻医の希望や研修の環境に応じて、各 Subspecialty 領域に重点を置いた専門研修を行うことができます（各科重点コース参照）。本プログラム終了後はそれぞれの医師が研修を通じて定めた進路に進む

ために適切なアドバイスやサポートを行います。

#### 14. 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は日本内科学会専攻医登録評価システム J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は毎年 8 月と 2 月とに行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧し、集計結果に基づき、九州中央病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。



## 九州中央病院内科専門研修指導医マニュアル

### 1. 専攻医研修において期待される指導医の役割

- 1) 1人の担当指導医（メンター）に専攻医1人が九州中央病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
- 2) 担当指導医は、専攻医がwebにて日本内科学会専攻医登録評価システム J-OSLER にその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム J-OSLER 上で行ってフィードバックの後に J-OSLER 上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- 3) 担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承認します。
- 4) 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- 5) 担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- 6) 担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2年修了時まで合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行います。

### 2. 年次到達目標と評価方法、ならびにフィードバックの方法と時期

年次到達目標は、内科専門研修において求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」に示すとおりです。

- 1) 担当指導医は、臨床研修センターと協働して、3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 2) 担当指導医は、臨床研修センターと協働して、6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 3) 担当指導医は、臨床研修センターと協働して、6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- 4) 担当指導医は、臨床研修センターと協働して、毎年8月と2月とに自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。評価終了後、1 か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形成的に指導します。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形成的に行って、改善を促します。

### 3. 個別の症例経験に対する評価方法と評価基準

- 1) 担当指導医は Subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価を行います。
- 2) 研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院

サマリ作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っている第三者が認めると判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行います。

3) 主担当医として適切に診療を行っている認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医に研修手帳 Web 版での当該症例登録の削除、修正などを指導します。

#### 4. 日本内科学会専攻医登録評価システム J-OSLER の利用方法

1) 専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。

2) 担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います。

3) 専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。

4) 専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。

5) 専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医と臨床研修センターはその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。

6) 担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システム J-OSLER を用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

#### 5. 逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システム J-OSLER を用いた指導医の指導状況把握

専攻医による日本内科学会専攻医登録評価システム J-OSLER を用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき、九州中央病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

#### 6. 指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて、臨時（毎年 8 月と 2 月とに予定の他に）で日本内科学会専攻医登録評価システム J-OSLER を用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い、その結果を基に九州中央病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

#### 7. プログラムならびに各施設における指導医の待遇

九州中央病院給与規定によります。

#### 8. FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修（FD）の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システム J-OSLER を用います。

#### 9. 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」の活用

内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」

を熟読し，形成的に指導します。

10. 研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先  
日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。